



朝もや（雪野村）



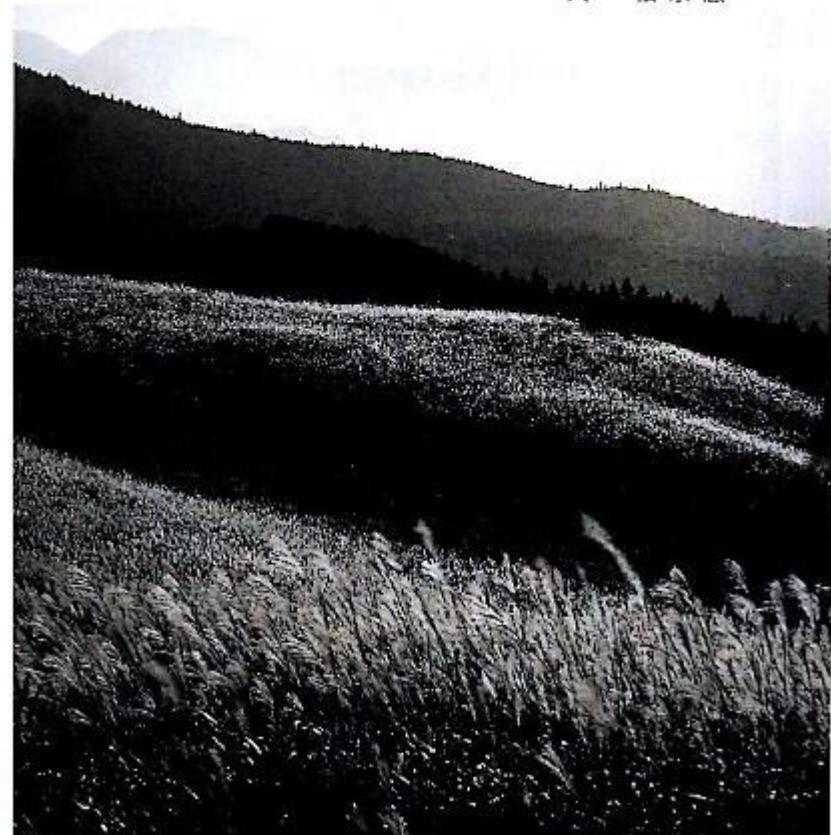
春日山原始林（奈良）

一面の尾花は
西日をはじき返しながらきらめき
しろがね色の鱗をつけた獣たちの
行進を思わせるように波打つ
新雲は華麗な舞を続けながら
次第に小さくなり、淡くなり
青空に吸い込まれるように消える
森の匂いに包まれながら
黄、紅、緑の中を歩く
風が吹き渡り
一枚のくれないの葉が
ゆったりと舞い降り
深まり行く秋を告げる
行く秋をいとおしむものたちが
最後の宴の盃をかわしあう

Photo essay

行く秋

題字 中田蘭石
撮影 由井 収
文 松永惠一



苔原高原のススキ（笠生）

季節の

実景

晚秋

撮影 武市通治



赤い実（サンシュ）



キノコ



白樺林



御在所にて



晚秋の山里



霧氷（田代池）

吉沢 栄一



鳳越山〈上松町〉より御嶽山（木曾）

神原 計國



反映（田代湿原）

吉沢 栄一

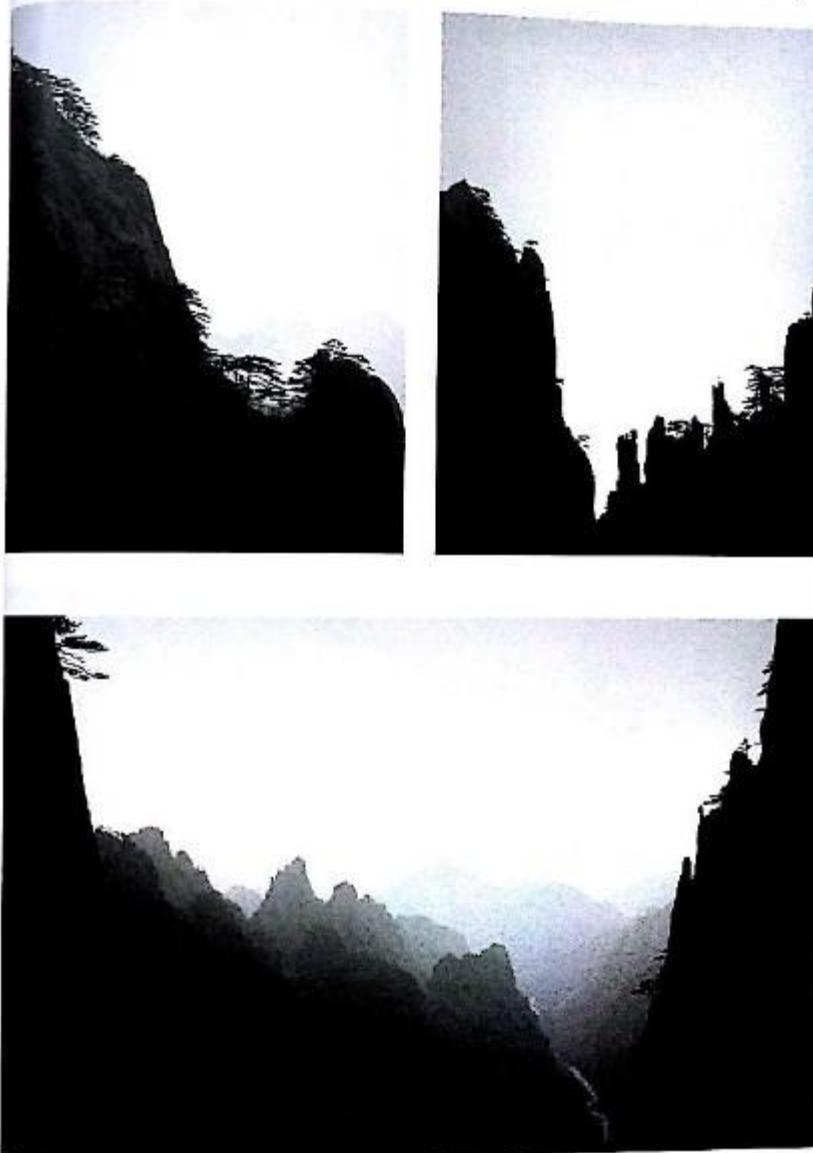


湿原と草もみじ（尾瀬ヶ原）

三浦 弘幸

シルエットの山三題（中国黄山にて）

奥田 英一郎



新作グ
関西の山
98年11-12月 晚秋 第43号

●目次

表紙：松田敬男「本谷山より雪煙をあげる塩見岳」(南アルプス)
 ●作者プロフィール❶1940年、京都生まれ。京都立芸術大学卒。1987年より山並板画、山墨画の個展多数開催。『活動評議会』(南アルプス山小屋、東京キャラリーハウス、他)、『草花』(群山と野に咲く花代走)、日本山岳会員、一等二等山岳研究会会員。

●ガイド	行く秋 採蜜 由井 収 文	松永 嵩一
(口説) 小林美 岸原計画	季刊の実業 (株) 「御在所にて」他 武前 道治	
隨想 (山のエッセイ)	三浦弘幸 吉沢栄一 奥田英一郎	
八つ頭の滝・太閤峰の大岩に「八箇」と彫られた文字 素田		
「鷹の巣」は古来の夢? 梶木		
木曾越峠と高時山 (入笠) 奥田英一郎		
黒部五郎岳から双六岳 (上) (北アルプス) 菊見		
日界山と味刺野の里 (起泡) 木村		
法師山と塙山 (大高尾) 滝野		
(連載) 日本登山記行 (続) 松田		
錦糸山と茅ヶ岳 (北信越) 関根		
スペシャルアルプス山旅記 (マイスター・ショルマット) 塚元		
連載 北風をよくのむ山は出雲からやヶ岳・山・滝山 長谷川		
カモコロル「見聞録⑧」 芳野		
ハンザからギルギット・ベシャーム・タキシラへ 春明		
●1等III(積点路)(500点以上) 54度実測の記録 (第10回)		
トカラ列島・奄美大島の山を登る 塚井		
卷田山原始林 (奄美) 松永		
④ 大甲山 (奄美) 久光		
⑤ 卷田山原始林 (奄美) 松永		
③ 大和影山 (奄美) 久光		
④ 破砂山 (奄美) 内田		
⑤ 鮎盛山 (奄美) 嘉弘		
沿線ハイキングガイド 岩田		
ヤードスケーリング 岩田		
セゼンルル 岩田		
新ハイ閣西山行脚両山と報告 岩田		
バス時刻表 (京都北) 岩田		
標準後記・区切案内 岩田		
95 81	77 78 74	
96 81		
新ハイ閣西山行脚両山と報告 岩田		
バス時刻表 (京都北) 岩田		
標準後記・区切案内 岩田		
96 81		

卷頭言

豪爽な木、アウトドア・シリーズ『ウミサ・ウォッチャング』(以下、日本交通公社刊)を読んでみました。地球は「異常気象」だと書かれています。最近、中國大陸で大洪水が起き、日本でも東北地方を中心に大雨や冷夏で農作物に甚大な被害が出ています。海外からも異常気象と思われる現象が新聞やテレビで報じられています。南半球では小島が海水に沈みかけているといいます。「地球温暖化」「酸性雨」「光化学スミック」「ヒートアイランド」「オゾンホール」など、恐ろしいことばかりじる相手です。

私たちも、身近な自然に目を向けてみましょう。それらの影響が何を感じられるかです。この本の著者兼大治氏は「外に出たがままず空を見上げてみよう。どんな事が出来ているだろ?」か?「雨は? 風は? 空気は冷たいか暖かいか?」動・植物はどんなもうすか? それらの観察を通して空席を予感するのも、ユニーク・ウォッチャングならではの楽しみ」と記しています。

ハイキングを楽しめるのも、安定した天候が絶まり、豊かな自然があればこそです。

ハイキングを楽しめるのも、安定した天候が絶まり、豊かな自然があればこそです。

新ハイ閣西山行脚両山と報告 (岩田) 岩田



克 (山)のエッセイ

田藤治氏のレポートで、黒谷に住む岸田安蔵氏（昭和22年生れ、当時30歳、昭和55年没）の話を聞きとりましたものである。

大正五年当時の高島村長は奥村氏で、功績を残さんがために県知事に陳情を重ね、村役場の収入役であった安蔵氏が村の「八ツ瀬の滝」のすばらしさを話したところ、知事が大変な興味を持たれて、県庁職員と県会議員全員で現地を訪れるに至った。

7月29日、道中を馬で案内してもらった知事は大岩に「八徳」の文字を書き込んだ。八つの瀬の滝をこの大岩に記したといい、その後に、この文字を大字黒谷字中溝に住む石屋、岸田友吉氏（昭和）が彫ったという。安蔵氏は昭和三年、高島村長となり、「道路村長」の異名をとった。

レポートには、大正五年当時の滋賀県知事は尾田という人と



滋賀県高島郡高島町の八池谷にある八ツ瀬の滝は、もとは八瀬流と呼ばれていたが、幕末期「八瀬」として知られるようになつた。近江の歌人・中江千利は次のような和歌を詠んでいる（『高島郡志』昭和二年）。

星引の御山もさやにとるきて
大すり鉢に落る滝つせ
八つの瀬のうちの一つである大瀬鉢のそばには、大きな自然石があり文字が刻まれていることで、ハイカーによく知られている。

森本次男『比良連峰』（昭和36年）には「谷の中に大きな四角い岩があつて、大きな隸書体で

あるが、実は、池松時和（任期は大正三、六年）であり、堀田義次郎が知事であったのは大正八年（十二年のこと）である（『滋賀縣史』第四卷最近世、昭和三年）。

筆者は、さらに高島町役場企画課に問い合わせたところ、堀田氏に問い合わせたところ、記述の根拠は高島町役場企画課作成の日本の滝100選

「八瀬と彫ってある」と記されている。この記述をそのまま信頼して紹介している記事は、「比良研究と案内」（昭和40年）や「比良山系」（昭文社・京都・滋賀近郊の山を歩く）（京都新聞社）などの近著にも見られるが、ほんとうに「隸書体」で「八瀬」と彫つてあるのだろうか。

塚本義次編著『京阪神ベストハイク』（渋谷を訪ねて）（一九九一年、七寶出版）には「自然の岩石に『八徳』の文字が隸書体で彫られている。大正5年に堀田滋賀県知事が書いたものといわれている」とある。「八徳」について、『学研大字典』に八つの徳として、「左右倫義分競争」と「仁義礼智忠信孝悌」の二種類が載せてあるが、「正辞苑」と共通する後者を一般的には指すようだ。

塚本氏に問い合わせたところ、記述の根拠は高島町役場企画課作成の日本の滝100選

「八瀬」には見当たらないので、記者の勝手な補足のようである。「八徳」という文字の書体に確認できる資料で、安蔵氏が亡くなつた今日では、言い伝えとなつてきていることであつた。

同封された平成2年1月27日の京都新聞の記事（『八徳』ってなにな）には、「高島町鹿ヶ瀬の比良山中にある『八瀬の滝』の隸書体で刻まれた石碑について最近、町産業観光課へ碑文の字解や出来の問い合わせが増えており、町元の郷土史家によると『大正初期に彫られ、字は當時の堀田義次郎・県知事が、滝に神靈を感じ、その徳を念じて書かれたのではないか』といふ」とある。ただし「滝に神靈を感じ」という文は「高島の民

俗」には見当たらないので、記者の勝手な補足のようである。「八徳」という文字の書体に確認できる資料で、安蔵氏が亡くなつた今日では、言い伝えとなつてきていることであつた。

同封された平成2年1月27日の京都新聞の記事（『八徳』ってなにな）には、「高島町鹿ヶ瀬の比良山中にある『八瀬の滝』の隸書体で刻まれた石碑について最近、町産業観光課へ碑文の字解や出来の問い合わせが増えており、町元の郷土史家によると『大正初期に彫られ、字は當時の堀田義次郎・県知事が、滝に神靈を感じ、その徳を念じて書かれたのではないか』といふ」とある。ただし「滝に神靈を感じ」という文は「高島の民

八瀬の滝・大瀬鉢の大岩に「八徳」と彫られた文字

堀田 昭彦

克



隨想 (山のエッセイ)

かいところに生えるシイ・カシ類の常緑照葉樹林で、広く分布することが知られている。

鎮守の森を抜いた好若に四手井綱英編『下鴨神社の森』(ナカニシヤ出版)がある。第一部「京の森」で、「京のまちは何度も火事に焼かれ、洪水で流れされ、時代ごとに開発に出台了り伐採されたりして、照葉樹林はなかなか成立しなかった。エノキやムクノキなどのニレ科の大木が多い。ニレ科は先駆植物(バイオニア・プランツ)と呼ばれ、荒れ地に早い時期に侵入してくれる樹種である。同じ先駆植物であるアカマツが繁ればニレ科は侵入できない」と指摘している。さらに、下鴨神社の古絵図「鴨社古圖」(金町)、「下賀茂境内之繪圖」(江戸)、「賀茂御祖神社境内全圖」(明治)などを用いて「社の森」の樹種の変遷を調べている。

中世から昭和初期にわたって

本殿より南側はマツが優先し、マツの比較的密度の低いところにニレ科の木が侵入して落葉広葉樹の混交した森へと移り変わり、さらにマツが衰退してニレ科の優先する森に変わってきたと推定している。

また、江戸時代の「都名所図会」では、幾つかの神社の森が描かれているが、全般的にはマツ・スギ、細かい葉の広葉樹(ニレ科、カエデなど)が比較的大多く、茂の濃い広葉樹は社殿の奥など要所要所にある程度だと述べている。

六甲山系の古刹太山寺(神戸市西区)裏山にうつそつと繁る照葉樹林は、鎮守の森として古来より地域の人々により大切に保護されたきたと考えられている。県下最大の原生林として県天然記念物に指定され、有名出版本の地名辞書や歴史ガイドブックにも紹介されている。しかし、

で、戦後の二次的な照葉樹林であることが最近明らかになった(植生学研究)第五卷第二号、一九九七・十一)。

それによると、江戸時代の「播磨名所遍覧圖鑑」では、周辺の山や谷にマツが描かれていたが、植生が貧弱ではげ山に近い状態だった。明治時代の「播磨名所旧跡圖鑑」では、山側、境内にマツ・スギ・落葉した広葉樹・竹が見られる。大正時代の終わりには周辺の荒れ地のはとんどがコナラなどの落葉広葉樹に置き換わる。第二次大戦後は國土地理院の地形図などでマツ林が減少し、シイ・カシ類の照葉樹林となる。花粉分析の結果も、林地の浅い層ではマツ層が減少するのと逆に、シイ層が優先し、70・3%と圧倒的になる。つまり、シイの極相林は最近できあがったと結論している。

京都周辺の山はアカマツやコ



によると、隸書とは小篆(主に「說文解字」に載っている文字)を簡略化したもので、篆書が実用に不便なため、隸卒(下級役人)が書きやすいようにその筆画を省略して実用に適うように作られたもので、楷書にかなり近い書体である。その書体が金文や小篆と異なることは言うまでもない。

以上の調査結果をまとめてみると、八ヶ浦の滝・大摺鉢の大岩に全文で「八徳」と彫られた文字の元字は、大正五年に当地を訪れた滋賀県知事が、八つの滝の「滝」の徳をこの大岩に急いで書き込んだものである、ということになる。

知事の名前は、大正五年という年次に誤りがなければ、堀田ではなく、池松のはずである。筆者はこのことを確認できる手配りを求めて、平成10年7月12日に大摺鉢を訪れ大岩の八徳の

文字の左側に刻まれた印篆を調べた。もしも、義卿(いきせい)という字の印を読みとることができた。もしも、義卿(いきせい)という字の印を読みとることは、大正五年という年次が間違っているのかも知れない。

結局、年代は大正期、知事の名前は多分、堀田義次郎ということが、より厳密な調査が行われることを期待したい。

大正五年といふことは、堀田義次郎の字であれば、が、堀田義次郎の字である、ことか。より厳密な調査が行われることを期待したい。

(字形の変遷)

小篆(金文)
隸書
楷書

大正五年 文字
甲骨文
全文(金石文字)

八徳
八徳
八徳

「鎮守の森」と言えば、だれも今見るように照葉樹林で、古来の原風景を今に伝えるという先入観によくぶつかる。ほんとうにそうだろうか。

現代人にとっては小篆を意味するこの森も、かつてはそうではないかった。「鎮守の森」も「鎮守」と「森」とは成立年代がはるかに違う単語の合成語だ。ここでは、①鎮守の森は必ずしも今見るように照葉樹林でなく構成種の遷移がある。②古語「モリ」は神聖な山を指したーの二点を見ておきたい。

西日本の潜在自然植物は、暖

克

克

「鎮守の森」は
古来の姿?

編本 選雄

文字の左側に刻まれた印篆を調べた。すると「字曰義卿」という字の印を読みとることが

できた。もしも、義卿(いきせい)という字の印を読みとることは、大正五年といふことは、堀田義次郎の字であれば、

が、堀田義次郎の字である、ことか。より厳密な調査が行われることを期待したい。

結局、年代は大正期、知事の名前は多分、堀田義次郎といふことは、堀田義次郎の字である、ことか。より厳密な調査が行われることを期待したい。

「鎮守の森」と言えば、だれも今見のように照葉樹林で、古来の原風景を今に伝えるという先入観によくぶつかる。ほんとうにそうだろうか。

現代人にとっては小篆を意味するこの森も、かつてはそうではないかった。「鎮守の森」も「鎮守」と「森」とは成立年代がはるかに違う単語の合成語だ。ここでは、①鎮守の森は必ずしも今見のように照葉樹林でなく構成種の遷移がある。②古語「モリ」は神聖な山を指したーの二点を見ておきたい。



隨想 (山のニッセイ)



克

者・橋田俊氏。もとは邊境に軍を駐屯させて亂を鎮め、その地を守ることだった。國・王城・寺院・村落などを守り鎮める神（鎮守神）の意に用いられるのは平安以降だ。仏教の護法菩薩の思想で中国伝来だ。高野山の丹生明神、比叡山の山王廣現など多くは寺院建立以前からの地主神を守護神とした。【本朝日記】天慶二年（九三九）四月十九日の条に、「鎮守正二位勅三等大物忌明神」の様子を見る。

平安時代から地方の莊園に領主の鎮守神を盛んに分祠したこともあって、次第に村落にも鎮守信仰が普及し、江戸時代には「鎮守の社」は「鎮守堂」と呼ばれた。

「鎮守の森」という英語がいつ頃成立したのかは「きりしない」だそうと思う。安丸良夫一橋大教授らがそれを間接的になつた。

者・橋田俊氏。もとは邊境に軍を駐屯させて亂を鎮め、その地を守ることだった。國・王城・寺院・村落などを守り鎮める神（鎮守神）の意に用いられるのは平安以降だ。仏教の護法菩薩の思想で中国伝来だ。高野山の丹生明神、比叡山の山王廣現など多くは寺院建立以前からの地主神を守護神とした。【本朝日記】天慶二年（九三九）四月十九日の条に、「鎮守正二位勅三等大物忌明神」の様子を見る。

平安時代から地方の莊園に領主の鎮守神を盛んに分祠したこともあって、次第に村落にも鎮守信仰が普及し、江戸時代には「鎮守の社」は「鎮守堂」と呼ばれた。

「鎮守の森」という英語がいつ頃成立したのかは「きりしない」だそうと思う。安丸良夫一橋大教授らがそれを間接的になつた。

「鎮守の森」という英語がない頃成立したのかは「きりしない」だそうと思う。安丸良夫一橋大教授らがそれを間接的になつた。

「鎮守の森」という言葉と原義は、近代以前にはさかのばれないださうと思う。安丸良夫一橋大教授らがそれを間接的になつた。

「鎮守の森」の言葉と原本も神社の地圖も財産なり」としてある。結果、「鎮守の森」の大たためている。「鎮守の森」という語はまだ定着していないかった。

「鎮守の森」の言葉と原本も神社の地圖も財産なり」としてある。結果、「鎮守の森」の大たためている。「鎮守の森」という語はまだ定着していないかった。

「鎮守の森」の言葉と原本も神社の地圖も財産なり」としてある。結果、「鎮守の森」の大たためている。「鎮守の森」という語はまだ定着していないかった。

第二の点だが、森は社（モリ）とも書く。社は国字に類するもので、「社木」の二字を合したもの。漢字に森の意味はない。古くは「神社」もモリと記されている。

【出雲風土記】意宇郡は、意宇社について、「郡家の東北の邊、田の中にある林（こやま）、是なり。開み八歩ばかり、その上に「もとの茂れるあり」と記述し、また「同」秋、鹿郡に足高野山は、「上頭に樹林あり、此はすなわち神社なり」と記している。

つまり神社の古態は、多くの場合モリはすなわち山であった。その原初の姿は神や精霊の降臨

東北地方に最も多く、それに次いで四國地方に多い。青森・岩手・秋田三県では、岡・小山・塙のよう丸く盛り上がった丘もさす。沖縄では小さい丘・小山をムイグワリという。西表島では波照間森がある。

その分布状況は近畿を中心同心円状に東西に広がる。国語学者の鏡味明克三重教授は、古い残存、つまり周圍構造を示すという。方言周辺論では紀文時代に山をモリといつた用法が現在よりも数多く全国的にあつたことを示唆する。その内側に

平安時代に入ると、モリは木立を意味するようになる。【源氏物語】には「かたもなく荒れた家の、木立繁くもりのやうなるを過ぎ給る」とある。【枕草子】は「森はうへ木の森、岩山の森...よこたての森といふが耳にとまるこそすずあやしけれ、森などいふべくもあらず、ただ一本あるを何ごとにつけむ」と、どの森も一本の木だけなのになぜ森というかと疑念をはさんでいる。

「鎮守の森」の「鎮守」は平安時代に成立した語だ（宗教学

り、村々の庭士社をその底辺に配した神々の大系づくりだった。魔藏の対象になつたのは、記紀神話や延喜式神名帳に記された神仏のすべてだった。淫祀邪教の扱いだった（「神々の明治維新」岩瀬新吉ほか）。上知令も施行された。

明治時代を通じて一村一社の氏神制に神社整備が行われた結果、大正二年に新定された「神社明細帳」の各神社の由緒の項目には、廃合させられたおびただしい合祀神社が記載されている。

明治時代を経て、一村一社の神社の中から神主神だけが大事にされ、今日、村や町で見られるような氏神（神主社）が成立した。

われわれが神社の模式として多くの神仏の中から神主神だけが自然に思い浮かぶ境内の鳥居、社殿、神体（鏡）や札引の様式などの大部分もこの時期に成立したものである。

付知峠・渡合温泉から

木曾越峠と高時山

奥田英一郎

木曾

木曾越峠の二体石仏

御嶽山の南麓を流れる王滝川に沿って

まだ森林鐵道が走っている所の、いわゆる
御嶽花崗の古峰を越えて、谷筋にある鉢
巣(鉢巣)はまだまだそこそこある。油屋(お

ねじい)ヒトコロ(ヒトコロ)はまだまだそこ

ある。山脈をしきみたないと聞いて出かけたところ
がある。南北街道とよわれる中津川と下呂とを
結ぶ中間にある加子母村の木曾谷から歩

き、木曾越峠を越え、所どころで釣りを

楽ししながら、林道をたどってランプの
軒宿に着いた。簡素な宿に泊まつた翌日、荒れた山道
をあえぎあえぎ白雲峰に登り、林道に沿って白い御嶽山を眺めながら流れる集落に
近づいていた。

渡合温泉まではほかばかりの道のりだ
が、ここしばらく山の路らしい好大架さ
の山口が狭隘、中津川駅前からへて付
近駅に入る。付近駅の東駅前と西駅前と
の出合の駅前は御嶽花崗の駅前所があり、
バスの終点にはしている。連休の初日で
タクシーが止まつていて、付近駅は
裏木曾自然公園になりついで、東駅の不
足の運送を解消する御嶽流が、標榜のお出で
しているのである。



木曾越峠と高時山

は渡合には戻らず、思い切って林道を加
入しておらずみよかと思つた。

山口が狭隘、中津川駅前からへて付
近駅に入る。付近駅の東駅前と西駅前と
の出合の駅前は御嶽花崗の駅前所があり、
バスの終点にはしている。連休の初日で
タクシーが止まつていて、付近駅は
裏木曾自然公園になりついで、東駅の不
足の運送を解消する御嶽流が、標榜のお出で
しているのである。

たどり着いた。度々なことに御嶽の森林
鐵道は秋の連休に連休とねじて乗れなかっ
た。駅名の近くに遊歩用車が止めであつ
たので中に入つてみたが、驚いたのは掘
除(くずし)た新しい子どもの名札が、二十数
人中、二、三人の子を除いて、他はみんな
な「三浦」姓だった。この上醍醐奥美濃落
の流域は、まさに鎌倉の殘堀三浦一族が
定住した所だったのである。

当時玉瀬までの道はなく、森林軌道の
線路沿いに歩いた。水ヶ瀬とか大庭湖と
かいの清澄な流れを見下ろし、秋桜を
渡りトンネルをくぐりながらの道程だ
った。林道の枕木は、貝、等閑間に並んで
いるようだが、実は微妙に進つていて足

たどり着いた。度々なことに御嶽の森林
鐵道は秋の連休に連休とねじて乗れなかっ
た。駅名の近くに遊歩用車が止めであつ
たので中に入つてみたが、驚いたのは掘
除(くずし)た新しい子どもの名札が、二十数
人中、二、三人の子を除いて、他はみんな
な「三浦」姓だった。この上醍醐奥美濃落
の流域は、まさに鎌倉の殘堀三浦一族が
定住した所だったのである。

当時玉瀬までの道はなく、森林軌道の
線路沿いに歩いた。水ヶ瀬とか大庭湖と
かいの清澄な流れを見下ろし、秋桜を
渡りトンネルをくぐりながらの道程だ
った。林道の枕木は、貝、等閑間に並んで
いるようだが、実は微妙に進つていて足

のりズももまたなかった。

そんな往時を思い起してまだ登り残
していた高時山に登り、できれば丹波本
曾福島に出てみようと加子母村役場に電
話をしてみると、木曾越峠への旧道は今

は全く使われていなくて、林道が近くま
で入っているものの、林越えは無理だと
云う。念のために渡合温泉に問い合わせ
ると、渡合橋から岐を経て、高時山に
も登れるが、加子母村からは林道から鉾
輪路沿いに歩いた。水ヶ瀬とか大庭湖と
かいの清澄な流れを見下ろし、秋桜を

渡りトンネルをくぐりながらの道程だ
った。林道の枕木は、貝、等閑間に並んで
いるようだが、実は微妙に進つていて足

と身に沁みる。

翌日も快晴。朝食を玄関前の衝立での
角の湯がねが二つ据えてあつた。それぞ
れ、一人があつたりと没れる大きさであ
る。ちょうど日暮れ頃で、窓明りが素朴
な山の湯をしるじると感じさせた。夕食
には鰯のあいと理ごく。岩魚の塩焼き
に各種山菜の天なる等々……。珍しい蜂
の子もあって、家庭的な手料理を味う。
自家発電なので、夜の明かりはもちろん
やむなく付知峠から高時山に登り、白雲峰起
えはまたの機会にしよう。ただ、でされ



- 16 -

のりズももまたなかった。

そんな往時を思い起してまだ登り残

していた高時山に登り、できれば丹波本
曾福島に出てみようと加子母村役場に電
話をしてみると、木曾越峠への旧道は今

は全く使われていなくて、林道が近くま

で入っているものの、林越えは無理だと

云う。念のために渡合温泉に問い合わせ

ると、渡合橋から岐を経て、高時山に

も登れるが、加子母村からは林道から鉾

輪路沿いに歩いた。水ヶ瀬とか大庭湖と

かいの清澄な流れを見下ろし、秋桜を

渡りトンネルをくぐりながらの道程だ

った。林道の枕木は、貝、等閑間に並んで

いるようだが、実は微妙に進つていて足

と身に沁みる。

翌日も快晴。朝食を玄関前の衝立での

角の湯がねが二つ据えてあつた。それぞ

れ、一人があつたりと没れる大きさであ

る。ちょうど日暮れ頃で、窓明りが素朴

な山の湯をしるじると感じさせた。夕食

には鰯のあいと理ごく。岩魚の塩焼き

に各種山菜の天なる等々……。珍しい蜂

の子もあって、家庭的な手料理を味う。

自家発電なので、夜の明かりはもちろん

やむなく付知峠から高時山に登り、白雲峰起

えはまたの機会にしよう。ただ、でされ

ば渡合には戻らず、思い切って林道を加

入しておらずみよかと思つた。

山口が狭隘、中津川駅前からへて付

近駅に入る。付近駅の東駅前と西駅前と

の出合の駅前は御嶽花崗の駅前所があり、

バスの終点にはしている。連休の初日で

タクシーが止まつていて、付近駅は

裏木曾自然公園になりついで、東駅の不

足の運送を解消する御嶽流が、標榜のお出で

しているのである。



古道の大樹下の石仏

古道の道標に導かれて山道に入る。朽ちた棧道をたどりながら、しばらく檜の植林のなかを行くと、まもなく根が新しい木に着く。ササのなかに二体の石仏が鎮座している。頬杖を突きにっこりと微笑んだ半跏思惟像は、龕音さまだろうか。だれも見えなくなつた井の右伝は御供養井并の名残である。

「お地蔵様……」きょうはおさいせんだけです」「こんとはいつお会いでさるのだろうな?」下山は当初の予定通り、加子母村へおりることにする。道は無い。が思ひきつて、クマザサを押し分けかけ古い踏み跡を探るようにしてくだる。ありがたいことに、古道の踏み跡は深いクマザサ下山は当初の予定通り、加子母村へおりることにする。道は無い。が思ひきつて、クマザサを押し分けかけ古い踏み跡を探るようにしてくだる。ありがたいことに、古道の踏み跡は深いクマザサ下山は当初の予定通り、加子母村へおりることにする。道は無い。が思ひきつて、クマザサを押し分けかけ古い踏み跡を探るようにしてくだる。ありがたいことに、古道の踏み跡は深いクマザサ

それが想いがある」ことを喜べばいい。こうして、御嶽山とその周辺を春秋、ワンドリングできる幸せを、「一期一会の喜び」として、歩くことを大切にしたいと思う。

御嶽山の草たる姿を心のかめらにしきりと収めて、お地蔵さんの待つ味に引き返す。同行のNさんが右伝に愛しい心をお供えする。

「お地蔵様……」きょうはおさいせんだけです」「こんとはいつお会いでさるのだろうな?」下山は当初の予定通り、加子母村へおりることにする。道は無い。が思ひきつて、クマザサを押し分けかけ古い踏み跡を探るようにしてくだる。ありがたいことに、古道の踏み跡は深いクマザサ

山と高原地図シリーズ

定価750円(税込)

- 1 木立・霧島・御嶽・阿蘇(刊行)
2 ニセコ・支笏山
3 大雪山・十勝岳
4 十和田湖・八幡平・秋田山
5 八幡平・白神山・黒森山
6 間野・早川
7 鹿追三山・白山
8 飯豊山
9 沢見・奥出雲三山
10 阿蘇山
11 豊後・若狭・安達太良
12 那須・奥日光
13 日光夷奈山・奥日光
14 尾瀬
15 越後三山
16 各川岳各山・立山
17 志賀高原・糸魚川
18 烏帽子岳
19 新潟・佐渡
20 五峰・室生・筑波
21 吉上村・妙高
22 黄龍殿・坂ノ上
23 美濃原
24 大吾音水橋
25 鹿児文・曾根山・南峰山
26 鹿角・八ヶ岳・中条山
27 高麗・越馬
28 月夜
29 雪原
30 伊豆
31 富士・富士吉田
32 ハチ公・磐梯
33 美ヶ原・霧ヶ峰
34 北アルプス越後

新規又社の「山と高原地図」は年別版として毎年春場

行います。ご山行の際はなるべく最新版をご使

用ください。お問い合わせ下さい。

新規又社の「山と高原地図」へのご質問、ご意見がございましたら、編集部「山と高原地図」担当までお

気軽にお電話ください。また新情報等お教えていた

ければ幸いです。



株式会社 明文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11
電話 03(3262)2141(代) 102-8238

支社 大阪市淀川区西中島5-11-23
電話 06(303)5721(代) 〒532-0011

営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・浦和・立川・新潟
金沢・静岡・名古屋・京都・広島・福岡

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発株へ!!



スキーパスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカギビル4F
電話 06(745)3911・FAX 06(745)3883
(夜間・電話 06(946)0816・FAX 06(946)9044)

△コースタイム△
付知秩父観光案内所(約1時間30分)高樽
谷瀬(約1時間15分)渡合温泉(約1時
間)木曾越峰入口(約20分)木曾越峰
(約30分)前高時山(約40分)高時山
(約50分)木曾越峰(約20分)林道(約
1時間20分)中切
△地形図△2万5千尺計子母
△開け合せ先△

渡合温泉 0573 (82) 2959

新ハイ例会・自然観察山行

黒部五郎岳から双六岳(上)

すこ うく だけ

鶴見守康

北アルプス



昨夏、新ハイ例会山行で太郎兵衛平から北へ篠原岳をめざしたとき、来夏は北ノ俣岳を越えて黒部五郎岳へと南下しようと心に決めていた。北アルプス西銀座ダイヤモンドコースとも形容されるこのコースは、黙々と歩けば2泊3日も可能だが余裕をもって3泊4日とし、そのぶん、山岳景観や高山植物を楽しむことにした。

3泊4日の日程は、やはり私たち中高年者にとって長い山旅となるため、参加会員の皆さんには、案内ハガキで万全の体調での参加をお願いした。ところが、山行を前に当の私が体調を崩してしまったのだ。右脇腹にとりヒリとする違和感

やめておけ」と言われたたうどうしようなど、あれこれ考えながら診察椅子に座った私に、主治医は「山登りはいつから行くんだ?」と聞いた。親き見れば、カルテに「山登り」と記してある。3泊4日の長い山旅であり、疲れが蓄積しても丈夫だろうかと問いかけた私に、「疲れだからといって症状が悪くなるわけじゃない。要は痛みだけのことで、自分で我慢できるということなら他人に迷惑かけるわけでもない、行けばいいよ」ときりと言ひ放つた。

その後から慎ただしく準備を始め、翌日の夜近く山発。会計後をお願いしたBさんといつものようJR東日本車で落ち合ひ、大垣駅から最終列車で米原駅へ。深夜の米原駅には登山者がうろうろしていた。桜電球の光が化粧無人のプラットホーム。そんな映画のシーンのような風景を想像していた私には、驚くべきことだった。

「この米原駅からこれだけの登山者が乗車するということは、ひょっとすると……」私の不安は的中した。ホームに滑り込んできた夜行急行「きたぐに」は満員で、テッキから車内にも入り込まない状

を感じだしてから三日目の7月8日、わろ一帯状態」と診断された。鎮痛剤・抗ウイルス剤・ビタミン剤の服用と抗生素軟膏による治療を始めたが、治療まで二週間は要するといい、右脇腹の違和感は、やがて明確な痛みとなつた。

一週間経つて、主治医におそるおそる会議室は想い例ばかりをあげづらい「安静山登りへ行くことを打ち明けたところ「行けばいい」というあまりにも簡単な返事で、参考にと相談した職場の健康相談室は想い例ばかりをあげづらい「安静が第一」と繰り返す。痛みはよいよ強くなり、薬の副作用なのか気分もすぐれない。無理を押して入山しても、何があ

れが、料金は一割引きという事前の案内も、一人分の割引に変わってしまった。

折立に到着したのは8時30分。昨年は折立に到着したのは8時30分。昨年は比べ、マイカーの駐車台数も登山者数もあるに多い。キャンプ場の芝生広場でミーティング。身仕度を整え、水を補給したのもミズナラの巨木の下に集合、9時10分出発した。

天候は晴れながら雲が多い。太郎坂は昨年も同じ時期に歩いているが、足元の野草の様子はすっかり変わっている。やはり、花曆の進行が例年に比べ半月ほど早いのだろう。

登り口はブナを中心とする冷温帶落葉広葉樹林だが、まもなく重高山針葉樹林帯に入り、オオシラビソ・コメツガ・クロベ・キタゴヨウなどマツ科やヒノキ科の大木が姿を見せ、途中、オオシラビソの純林とも言える霧氷氣の林のなかを歩く。草木類の花は少ないかわり、アカモノ・クロウスゴ・ウスノキなどのツツジ科の木の実や、ゴゼンタチバナ・タケシマラン・マイヅルソウなどの草の実が目に入る。ツツジ科の木の実は食用となり、特にクロウスゴとウスノキは生食してもおいしく、さわやかな酸味が口の中に広

感であった。不幸中の幸いか、私たちが乗り込んだ車両には、京都から乗車していたAさんがデラックス付近の通路に座っていたので、Aさんの協力でザックなどは何とか腰袋に置けた。けれど、道端にはBさんと二人が座りこめるスペースはなく、金沢までの間私は立っていた。

車内は登山者がいっぱい、細網やそぞろかしこにザックがひしめいていた。

折立から太郎兵衛平へ

富山駅までJR夜行急行を利用したのは4人。さらに地方鉄道で有峰口駅へ。同駅にて、裏西から松本電鉄の直通夜行バス等で先着していた十一人と合流した。

ここから、キャンプ場のある登山口の折立まで、富山地盤の古いバスにゆられて林道有峰線を走る。あらかじめ团体予約をしておいたものの、電話口の従業員の「東部自動車営業所客業課の××が承りました」というときばきとした応対に安心して、前日の電話確認を省略したのが失敗であった。当日の係員は何も聞いていないという。先着順の手配により、結局バスには満りなく十五人乗車できた

がって行く。

一時間4分ほどで登り、10時40分。右の三角点に至る。樹林帯を下ったる抜き道で、標高が大きく開ける所で、多くの登山者が休息している。彼らに入れる多い。昨年とは段違いだ。さうの宿の大部小屋の混雑が感じられる。

再び樹林帯に入るが、ひじくだらしの石畳の登りとなり、まもなくスズキやナガリンドウが生える草原に出る。ハロベナタチヤマリンソウが星柄のように咲き続いている。

濃紫色はミヤマソウで、池塘もある草原には、イワシヨウカやイワシヨウブの生える草原に出る。ハロベナタチヤマリンソウが星柄のように咲き続いている。濃紫色はミヤマソウで、池塘もある草原には、イワシヨウカやイワシヨウブの生える草原に出る。ハロベナタチヤマリンソウが星柄のように咲き続いている。

日差しは暖めやわらかく、山々とした草原には整備された丸太階段の登りが続く。本日の行程で一番苦しい所だ。二度ほど大きな登りがあつて、10時45分に到着。もうひと踏ん張りしてベンチのある台地に出る。東前方に太郎平小屋を眺り、北方間近に裏越岳が迫まり、岩井谷に落ちる斜面にニッコウキスゲの群落を見る。それらを楽しみながら昼食休憩。

食欲がない。べたのかな……とも思えたが、薬を服用しているせいなのかも知れない。医師からも「薬剤情報提供書」には「胃腸に負担がかかることがあります」と記されているが、そのくせ胃腸薬は含まれていなかった。

ひとりして、薬師沢を離れて北アルプス最奥の西ノ平谷をゆるに山なり、その雲へ手を取り開むるやうに、其へ保岳・黒部五郎岳・双六岳・三ツ蓮岳・相父岳・鷲羽岳・木曾岳・薬師岳などの名峰が居並ぶ。

さすがは、この山脈のメインである黒部五郎岳へ登るところか、メンバーの表情には緊迫感が感じられるのだが、私は胃腸の具合が悪く水分をぐるねり。それでもいいのか、足頭に立つて出発した。

太郎兵衛塚から北へ保岳への縦走路は、昨年さるお花畠が古びているのだが、トトロハイキングはすでに花びらを落として結果しているのか、今年の花期の早さには静かな草原となっている。

夕食後には、樹葉や雨びとが聞これた。翼したことを、今回のメンバー中、私がでは最早最もひどい花畠ハイキングの種類と評定しておいた。家に帰つておいても仕方ないか、地元にて持参したのをせいい。トトロハイキングの山脈を眺めて、樹葉一本の電話が入った。仕事の上、お問い合わせをしてくるのかもしれない。

北ノ保岳へ
朝出、大根坪発の朝5時頃まで上高地へ
いた。樹籬横流の山々が朝日は昇るといふ



大部山・北ノ保岳付近略図

宴を中断してサックを部屋に運んでやるわけなければならない。だが、その必要もないからだ。「特別室」とは豪華室に置かれていた部屋であった。けれど、取り立て悪くもなく、むしや、天井には干し物用のロープが幾つも走り、壁面の半分に帳が作られていて便利であった。向よりも、大変難かしく設営され、大いにくらべことができた。

ひとりしきつらいた後、小屋には飲用水が不足しているとのことで、薬師沢のキャット足水場まで水筒の手に三ヶ所まで出かける。キャット足の水は豊富で冷たく、やわらかさが身体に沁みるなり、まさに生やさしさの限りである。

夕食後には、樹葉や雨びとが聞これた。翼したことば、今回のメンバー中、私が

も清楚な白い花を咲かせている。風木の白い花はモコメコツケツケで、ロ・ソウやヒメツツジなども見分けられる。草原は、点々と小さな花びらの上を、走るのはロード・トライアルである。ロード・トライアルはおもそ五年間隔で大巡回するが、最近では一十九の年と去年、全国的には大切だ。さて、今年はほんとう花が咲いていない。

まだ施設開け前の大陸の高冠庄にある日差しは暖めやわらかく、山々とした草原には整備された丸太階段の登りが続く。本日の行程で一番苦しい所だ。二度ほど大きな登りがあつて、10時45分に到着。もうひと踏ん張りしてベンチのある台地に出る。東前方に太郎平小屋を眺り、北方間近に裏越岳が迫まり、岩井谷に落ちる斜面にニッコウキスゲの群落を見る。それらを楽しみながら昼食休憩。

食欲がない。べたのかな……とも思えたが、薬を服用しているせいなのかも知れない。医師からも「薬剤情報提供書」には「胃腸に負担がかかることがあります」と記されているが、そのくせ胃腸薬は含まれていなかった。

食事を終るなる登山者の時間に才ヨウが現れ、「ええ、ええ、歩いてた」どうして知ってるの?」「やうはり、驚見さんでしたなあ。声をかけはよかた……」

知人は、神岡新道を登って北ノ保岳を往復したところ。

若い頃から、毎夏アルプスを歩いていた彼は五年前から脚を悪くし、医者から一度と山を歩いてはいけないと宣告されていた。それにもかかわらず、父親の山好きで高校時代には双六山荘のヨウカのアルパイトをしていた息子に付き添つてもらい、ごくまに、山の香りを嗅いでいるようだ。

（次号につづく）

（平成10年1月18日～19日歩く）

ルートタイム

（18日）指立6・30～9・10～15時0・65三角点10・50～11・00～2・19時0・51～ベンチ12・20（昼食）13・10～太郎平小屋4・5（泊）

（19日）太郎平小屋6・5～北ノ保岳8・

15

（東京）朝6時30分出発、8時30分着、JR山形線新潟駅にて新潟市内観光。新潟市内観光後、新潟駅にて新潟市内観光。新潟駅にて新潟市内観光。

新ハイ例会・自然観察山行

黒部五郎岳から双六岳(上)

鷲見守康

北アルプス

昨夏、新ハイ例会余山行で太郎兵衛平から北へ乗馬岳をめざしたとき、米夏は北ノ俣岳を超えて黒部五郎岳へと南下しようと心に決めていた。北アルプス西銀座

ダイヤモンドコースとも形容されるこのコースは、熟々と歩けば2泊3日も可能だが余裕をもって3泊4日とし、そのぶん、山岳景観や高山植物を楽しむことにした。

3泊4日の日程は、やはり私たち中高年者にとって長い山旅となるため、参加会員の皆さんには、案内ハガキで万全の体調での参加をお願いした。ところが、山行を前に当の私が体調を崩してしまったのだ。右眼瞼にヒリヒリとする違和感

を感じだしてから三日目の7月8日、わけの分からぬまま皮膚科に受診したところ「筋肉痙攣」と診断された。鎮痛剤・抗ウイルス剤・ビタミン剤の服用と抗生素軟膏による治療を始めたが、治癒まで二週間は要するといい、右眼瞼の違和感は、やがて明確な痛みとなつた。

一週間経つて、主治医におそるおそる登りへ行くことを打ち明けたところ「行けばいい」というあまりにも簡単な返事で、参考にと相談した職場の健康新規は悪い例ばかりをあげつい、「安靜が第一」と繰り返す。痛みはよいよ強くなり、薬の副作用なのか気分もすぐれない。無理を押して入山しても、何があ

れがあった。不辛中の幸いか、私たちが乗り込んだ車両には、京都から乗車していたAさんがテッキ付近の通路に座っていたので、Aさんの協力でザックなどは何とか綱橋に置けた。けれど、通路にはBさんと二人が座りこめるスペースはない。金沢までの間私は立っていた。

車内は登山者がいっぱい、網戸やそこかしこにザックがひしめいていた。

折立から太郎兵衛平へ

同様に地方鉄道で有峰口駅へ。同駅までJR夜行急行を利用したのは四人。さらに地方鉄道で有峰口駅へ。バス等で先着していた十一人と合流した。

ここから、キャンプ場のある登山口の夜遅く出発。会計役をお願いしたBさんといつものようにJR岐阜駅で落ち合い、大垣駅から最終列車で米原駅へ。

深夜の米原駅には登山者がうろうろしていった。裸電球の光が住まい無人のプラットホーム。そんな映画のシーンのような風景を想像していた私には、驚くべきことだった。

「この米原駅からこれだけの登山者が乗車するということが、ひょっとすると……」私の不安は的中した。ホームに潜り込んできた夜行急行「きたぐに」は超満員で、デッキから車内にも入り込まない状

が、料金は一割引きという事前の案内も、一人分の割引に変わってしまった。

折立に到着したのは8時30分。昨年に比べ、マイカーの駐車台数も登山者数もはるかに多い。キャンプ場の芝生広場でミーティング。身仕度を整え、水を補給したのちミズナラの巨木の下に集合、9時0分出発した。

天候は晴れながら雲が多い。太郎坂は毎年も同じ時期に歩いているが、足元の野草の様子はすっかり変わっている。やはり、花曆の進行が例年と比べ半月ほど早いのだろう。

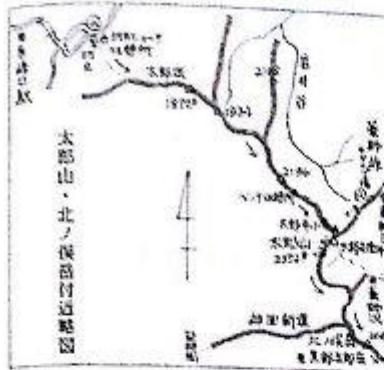
登山口はブナを中心とする冷温帶落葉広葉樹林だが、まもなく並木針葉樹林帯に入り、オオシラビソ・コメツガ・クロベ・キタゴヨウなどのマツ科やヒノキ科の大木が姿を見せ、途中、オオシラビソの純林とも言える霧開氣の林のなかを歩く。草木類の花は少ないかわり、アカモチノ・クロウスゴ・ウスノキなどのツツジ科の木の実や、ゴゼンタチバナ・タケシマラン・マイヅルソウなどの草の実が目に入る。ツツジ科の木の実は食用となり、特にクロウスゴとウスノキは生食してもおいしく、さわやかな酸味が口の中に広



がつていい。

一時間40分ほどを要して、1870・6時頃の二泊三日となる。樹林帯をいったん抜け出で、頭上が大きくなける所で、多くの登山者が休息している。実に人が多く、昨年とは段違いだ。さよなら宿の太郎小屋の混雑が思いやられる。

再び樹林帯に入るが、ひとくだけして石道の登りとなり、まるなくスケヤササの生える草原に出る。シロバナタチヤマリンドウが植栽のように咲き続いている。



濃紫色はミヤマリンドウだ。池塘もある草原には、イリヤシヨウやイワショウブなど花が咲いていない。

まだ梅雨明け前の大陸の高気圧による日差しは案外やわらかく、店舗とした草尾張には整備された丸太階段の登りが続く。本日の行程で一番苦しい所だ。(二度ほど大きな登りがありて、2196m付近) 到着、もうひと踏ん張りしてベンチのある台地に出る。東前方に太郎平小屋を眺め、北方附近に薬師岳が迫まり、岩井谷に落ちる斜面にニッコウキスゲの群落を見る。それらを楽しみながら昼食休憩。

食欲がない。ペテたのかな……とも考えたが、薬を服用しているせいなのかも知れない。医師からもらった「薬剤情報提供書」には「胃腸に負担がかかることがあります」と記されていたが、そのくせ胃腸薬は含まれていなかった。

食事をしている登山者の周囲にチョウ白い花はオオコメツツジで、コメツツジとの違いは葉の三行脈で見分けられる。草原に、点々と大きな葉で立ち上がるコバケイソウはおよそ五年周期で大咲きしているのはコバケイソウである。コバケイソウはおよそ五年周期で大咲きするが、最近では1992年と昨年、全国的に大当たりだった。従って今年はほとんど花が咲いていない。

まだ梅雨明け前の大陸の高気圧による日差しは案外やわらかく、店舗とした草尾張には整備された丸太階段の登りが続く。本日の行程で一番苦しい所だ。(二度ほど大きな登りがありて、2196m付近) 到着、もうひと踏ん張りしてベンチのある台地に出る。東前方に太郎平小屋を眺め、北方附近に薬師岳が迫まり、岩井谷に落ちる斜面にニッコウキスゲの群落を見る。それらを楽しみながら昼食休憩。

14時小屋着。生ビールの诱惑に抗しきび出発。さうのゴーリーの太郎平小屋はすぐそこだ。「ゆっくり、グラグラと行きますから」と宣言するとメンバーは苦笑している。草尾張の登りで少し引っ張り過ぎたから、ゆっくり行くと言つてもあまり信用されないのだろう。

14時小屋着。生ビールの诱惑に抗しきび出発。さうのゴーリーの太郎平小屋はすぐそこだ。「ゆっくり、グラグラと行きますから」と宣言するとメンバーは苦笑している。草尾張の登りで少し引っ張り過ぎたから、ゆっくり行くと言つてもあまり信用されないのだろう。

私は会計役は宿泊の手配をため混雑する玄関に並んだ。

「えええ……ああ、歩いてた……どうして知ってるの？」

「やつぱり、驚見さんでしたか……」声をかけられればよかったです……」

知人は、神岡新道を登って北ノ俣岳を往復したとのこと。

若い頃から、毎夏アルプスを歩いていた彼は五年程前から脚を悪くし、医者から一度と山を歩いてはいけない、と宣告されていた。それにもかかわらず、父親が譲りの山好きで高校時代には萩六山荘のボッカのアルバイトをしていた息子が付き添つてもらひ、じくたまに、山の香りを嗅いでいるようだ。

(次号につづく)

(平成10年7月16日～19日歩く)

△コースタイム△

(18日) 手取8・30～9・19～1870・6時30分点10・50～11・00～2196m付近12・20(昼食) 13・10～太郎平小屋14・05(泊)

(19日) 太郎平小屋6・05～北ノ俣岳8・

北ノ俣岳へ
第二、木曽川源流の源は静かな谷へ
ひだり、黒部源流の山々を駆け上るへす

「この朝の日曜日、ひる」とすると、北

山を終えた翌日、職場に一本の電話が入った。仕事の上で、お互いに信頼し合っている知人である。

-23-

「万葉集」歌枕紀行

日野山と味真野の里

木村太郎

越前

氣の向くままに『万葉集』訛文の原を
織いて、天平文化の花香る奈良の都と越
前の里・味真野の地とに、離れ離れにさ
れた恋人たちの悲恋物語が存在していた
ことを知った。
乙女の名は、日野兄弟上娘子。若者の名
は中臣朝臣宅守。という。二人は共に求
め合ひの愛を結ぶさせながら、乙女が天皇
に仕える身分であつたためには、禁忌の
恋を犯した若者は、都遠く越前の味真野
の地へ流刑の憂き目にあつた。

『万葉集』卷十五には、引き裂かれた
悲劇を乗り越え、娘子と宅守とが交わし
合った相思歌の数々が、色褪せることな
く光彩を放っている。

味真野に宿れる君が帰り来る
時の迎へを何時とか待たむ
夫を持ち焦がれて妻娘子は鏡首の思いで
歌う。味真野にお暮らしのあなたが、時
れて都へ帰つて来られる詩をお読みできる
日は、いつになると想つて待てばいい
のでしょうかと。
一千二百余年を隔てて今日に伝わる万葉
の恋人たちの悲歌は、現代の読者の胸を
も響かせてやまないが、その歌の眞実を
知るために、『万葉集』の故地を尋ね歩
く、時の旅人になつてみようと思つた。
万葉を歩く今回の目的は、越前の里に
比翼の丘をひらいて娘子と宅守の相思歌
碑を建立し、万葉の故地を公園にしたと

いう味真野苑の見学で、その味真野の里
を山裾にひろげて、古人からも贊美され
た優美な山容を見せてくる。福井県武生
市と南条町の境にある日野山(アマミヤ)
へ足を運ぶことにある。日野山へは北陸本線の王字保駅で降り
て東へ、田園風景を見ながら歩いて行く
と、別名越前富士と呼ぶに相応しい秀麗
なる日野山を見渡す日野川に着く。この



日野川ははるか昔に、大伴家持が越前
刺官大伴延主へ贈った歌として、『万葉
集』卷十九に出てくる坂經川という川の
名である。万葉の時代より遙々と流れて
いた川である。
坂經川を尋ねつづねが昔子は
日野川立たさぬ心なぐさに
万葉ゆかりの川にかかる長い下平吹橋
を渡り、道を日野川沿いに行き、左にと
る日野神社の参道が目に入る。
日野山に守られて鎮座する中平次日野
神社には總体天皇を主神とし、その子の
神子立と日野川の集落の脇に、登山口に導
く日野神社の参道が目に入る。

安閑と貢化南天皇を併せ三社がまつられ
ている。總体天皇が当地に遷化されて
いた時代に、一人の皇子を伴って日野山
に登山、朝日を拝されてその餘やかなこ
とに感ひ入られ、この山こそは朝日を拝
すべき山であると仰せになられたとい
う。
登山道へは神社左手の社務所脇から入つ
て行く。道の両側は前夜の雨に洗われグ
リーンも鮮やかに、杉や雜木の樹林が続
いている。ヤマアジサイ・ウツボガサ・
ドクダミ・ササユリなどの花がわがもの
顔に、あるいはひそやかに色褪せはじ
いて、歩いて楽しくなる道であった。
五合目の宝塔近くからは、落ちてきた
霧雨に足を急がせ、「比丘尼ころがし」
という名の危坂を登りつめた。両手を泥
で汚しながら息を切らせて慶宮の島店を
くぐる。頂上直下の広場には休憩小屋が
あり、その小屋の前で一人の先客が休んで
いた。あいさつを交わし名前を伺うと、
鉋江にお住いの竹内さんと名のられた。
聞くところによれば、着衣打ち職人で仕事
の合間をみて、年間五十日程も日
野山へ登っていると言う。

日野山への愛着を百葉の端々にじま
せた先客の登山者と、山上での一期一会
の晏食をとりつつ、はるかに遠方を見渡
す。霧雨はやっと上がり、期待してお
いた山の展望は皆無である。晴れていれ
ば東に白山や御嶽山が、西から北の方角
には日本海、三國の海まで見えるといわ
れているのに、いまは乳白色のカーテン
におおわれて、ただ白き闇のかなたに視
線を泳がせるしかない。

小屋の裏手に廻り石段を登れば、日野
神社の奥宮社殿が立つ日野山の山頂へと
着く。2等三角点の標石が埋められてお
り、さすがそれにタッチした。日野山
と休憩を廻わせられて、満足した気分に
なる。歴史の流れのなかで、あの「源氏
物語」の業式部が、「まだれ髪」の写綱
野島おふ、二十一文字の歌の言葉にのせて
描画せずにいられなかつた名山日野山
に自分は立っているのだ。

ここにかく日野の杉むら埋る雪

小塙の松に今日やまかえる
越前国府へ赴任した父に伴われて來た紫
式部は北陸の冬を過ごした時に、雪化粧
した日野山を見て京都の小堀山へ思いを
馳せていた。

また近年になって、夫歎翁と共に武生

を訪れた与謝野晶子は、

われも見る源氏の作者をさなくて

父と眠めし越前の山

と詠んでいた。この歌は、美式部に幼子の表装をはおらせて、时空を飛び越え、晶子自身が美式部に同化し同じ視点で、

越前の山を見ていたのだろうか。

私はそつての日野山は、越の大徳と崇敬されている泰澄大師が開山した、越前五山の一山としてよりも、一千年の昔に源氏の作者が見た山としての思い入れがあつた。眞山とはいえ日野山登頂という一つの目的は果したので、あとは味真野の里へくるだけ。山麓に賀谷日野神社のある下山道をとり、西谷と宮谷へ通じる分岐をやりすごし一気にくる。

賀谷登山口から味真野苑へは北の方角へ歩いて10分程度の距離で、苑の近くには謡曲「花重」発祥の碑が立ち、総体天皇と黒目前の物語がしのばれる味真野神社にも立ち寄ることができる。上村松嶺の唄く「花がたみ」の狂乱の照日前の絵姿は哀れを誘うものがある。狂気にいたりし恋慕と形見にもたせた花鏡により、身分の差を超えて恋を成就させたといふ土地の伝承を下敷きにしたのである。



味真野苑・比翼の丘の万葉歌碑

が、世阿弥作の椎栗もまた味真野に咲いた一編の恋物語なのである。

ともあれ目前とした味真野苑には植栽と二万坪におよぶ苑内に「万葉集」に収録されている花木を中心にして、種々豊富な植物が育てられている。そして何種類かの花木には、「万葉集」名古より遊び抜かれた花の歌が奉えられている。またフジ園・ボタン園・花ハス園・ミズバシヨウ園などの花園があるが、花の時期は終わっていた。

この季節の花として苑内に咲き誇っているのはアリザイの花である。「新古今集」の撰者藤原家隆が、

あちまのあちまき咲ける夕月夜

露のやどちは秋ならずとも

と一首歌した。あの露を宿した味真野の紫陽花の末裔が、その名を汚すまいとし

て、胸を張るかのように七色の花を聞かせていた。

この庭園の秋から冬にかけての万葉花木はハギ・ツバキを見ることができる。

庭園の背景に武陵山の遊歩道も作られており、城跡へ廻していると話を聞いた。

日野山からは「和紙の里ハイキングコ

富士山と大菩薩の横顔を望み

個室、岩風呂有り

大音廊附・唐松尾根分岐点

福ちゃん荘

平404

山梨県春山市坂原2332

電話(山小屋) 030-14-73215

(白老) 0553-33-46339

さて比翼の丘に立つ万葉の相應歌碑だ

が、東側には坂子の歌がある。

君が行く道の長路を繰り貫ね

あなたは都から遠い越前の里へ旅されて

いますが、その長い道を巻きたたんで燃き滅ぼして、行くことすら出来なくさせ

る天上の火があればいいのに、と歌う娘の返歌として、西側には宅守の歌が

のどこかに、平城京に待つ妻を思って、

彷彿する若者の姿を見かけたとしても、不思議ではないと思はずにはいられない。

だれでもそうだが、「万葉集」の読者が、この歌を庭の風が奏でている。この庭園

のどこかに、平城京に待つ妻を思って、

かかれるが、「万葉集」卷には答えは残されていない。

夫は歌う。
ここ味真野の里に数々の相應歌を紹ん
だ、坂子と宅守の面影は消え去ることなく、千二百年余を経た今日にあっても、

その歌を庭の風が奏でている。この庭園

のどこかに、平城京に待つ妻を思って、

かかれるが、「万葉集」の読者が、

この歌を庭の風が奏でている。この庭園

〔平成10年6月20日歩く〕

△コースタイム△

「JR北陸本線庄子駅（約1分）中平吹田

野神社（1時間）宝堂（1時間10分）日

野山（1時間30分）賀谷登山口（10分）

味真野苑（5分）味真野（福井バス25分）

○武生駅

△地形図△2万5千尺=武生

△開き合せ先△

武生宿泊所 0778 (27) 3000

郵便番号 20778 (27) 2204

紀州南部の展望と岩尾根の山二つ

法師山と嶽山

はうしのやま

だけさん

酒井賢治

大塔山系

（以前、本誌でエリア別徹底研究「熊野古道」を執筆されていた児島弘幸氏著の『分県登山ガイド「29和歌山県の山」（山と渓谷社）は、さすがにこの地域に詳しい岡氏が書かれただけあって、県内の著名な山はもとより、私が今まであまり知らない山が書かれていた。なかつた紀州の山々が紹介されており、この山域の指南書として重宝している。

未知の山のなかで特に魅了させられたのが、「荒々しく露出した岩峰、突き立つローラン岩、馬ノ背の岩尾根を行く……」などといった形容で紹介されている大塔山系の一峰、嶽山であった。

嶽山は西牟婁郡大塔村北部の奥まった

所に位置し、紀伊山地駆除から登山口の苔口まで定期バスが走っているが、登山には時間的に不便で利用価値は少ない。そこで岳友のMさんと建設をとり、マイカーによる嶽山登山を実現したところ賛同を得たので嶽山に加え、大塔山系で一番の展望を誇る法師山の二座に登る（約2日）。山旅を計画した。

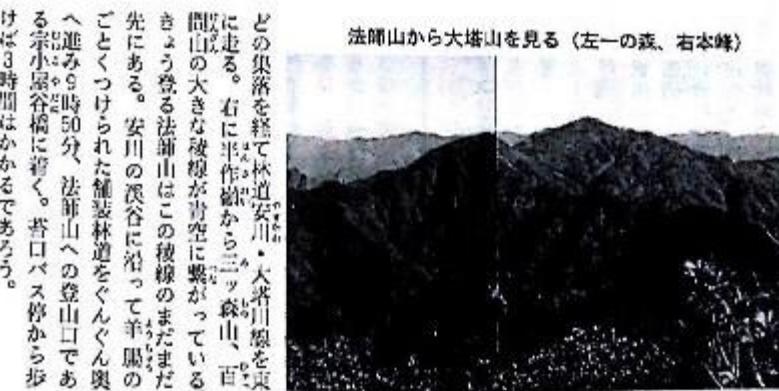
11月9日（日）、午前6時30分地下鉄八尾南駅でMさんの車に乗り、阪和自動車道・海南・湯浅御坊道路を経由し国道42号線を南下する。途中、朝来から国道311号線に入り北上、熊野街道（中辺路）の起点ともいわれる瀧尻で右折、地蔵峠を越え平瀬・宮原・城戸・苔口な

瀧木にヒメザサが敷き詰められた尾根半坦地で小休する。向こう側の谷からの風が、汗ばんだ肌に気持ちよかった。

少しきだって右に嶽山とした湿地を過ぎるとまた所どころに露岩の剥き出しの尾根を登る。左は植林で視界はないが、右は法師山から百間山に至る主稜と、そこから急斜面で安川渓谷に下る幾本かの尾根を樹間に垣間見る。

登りきって大塔山と法師山の主稜線分岐点に着く。前方近くに法師山のたおやかな山頂部を見る。東方向に大塔山への縦走路が分かれているとなく整備されたが、これは相手に難易度を経由コースらしい。ここから法師山へは馬酔木などの灌木とササに埋まる快適なプロムナード、途中右へ百間山方面への主稜線縦走路を過ぎて、山頂直下の斜面を急登、12時10分1等三角点の標石が埋まる法師山山頂（1120m）に着く。

山頂の南側半分はすっぽりと切り落とされる。私が先行Mさんが後ろだがお互いに気心や体力を知り尽くした相手、言葉などいらない。小笠さんが道をおおうようになると、尾根上の932号ハイカを右上に見てピーカの東を捲くように登り、11時過ぎには主尾根にたどり着いた。



法師山から大塔山を見る（左一の森、右本峰）

森を左に従えて望みたる山容でそびえ立ち、四方に諸山の尾根を張り出している。その後ろに鳥羽子山から大雲取山にかけての山並みを望む。北は一の森から続く尾根に此竹法師・ゴンニヤク山・三日森山などが優美な頭をもたげ、遠く果無山脈さらに笠ヶ岳山など大峰南部の山々、奥座敷山あたりの山々まで見渡せた。北西にはあす登る嶽山が安川の谷を隔てて近い。遠く南面が白く光って見えるのは白馬山であろう。西に新しく主稜線上には百間山。三ツ森山・半作宿などの山々が四国の山々までが浮かんで見えている。

うねるように上下する。南に日を向ければ重霧と広がる山並みの奥で太平洋が銀色に光って見えた。田辺西の海上遠く四国山々までが浮かんで見えている。すばらしい展望と明るい視界、そしてのどかな日和……。私たちだけの法師山のひとときを存分に楽しんだ。

13時30分山頂を後にし、時間をかけてゆっくりと往路を引き返し、15時30分頃奈小屋谷橋に下山する。きょうこの山に登ったのは私たちだけのようだ。

車で長い林道を引き返し、途中にある大塔村営富里温泉「乙女の湯」で入浴、17時過ぎ上野にある「民宿・やまびこ」

に着く。運動の後の心地よい醉り……。

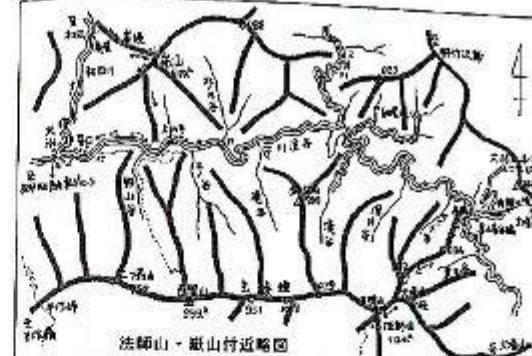
日高川の漁者が聞こえる喰床でMさんと雑談しているうちに、どちらともなく寝入ってしまった。

10日(日)、早めに朝食を済ませ、7時前に民宿を出発。苔口まで引き返す。

苔口すぐ手前の和田への分岐に車を止め、7時10分和田への車道を行く。さうも

書ひとつない快晴だ。

和田川の渓谷に沿ったV字状の山腰を約40分歩き、ガイド誌に記載の巌山への取り付き点である巌屋を川の向こうに見る。道端に小さな道標が卓に埋もれてい。河床にくだり飛び石で対岸に渡り、巌屋の裏手右から巌山道に入る。踏み跡が四方にあるため入り口を見つけるのに苦労した。灌木とススキにおおわれた山腹を10分差急登し、やっと歩きやすい尾根に出る。ひょっとすればここまでルートを間違っていたのかも知れない。植林と雑木のなかをゆるやかに登ると徐々に露岩が多くなり、やがて完全な岩尾根となつた。両手・両足を使っての三点確保で、岩块や木の根をつかみながら急斜面を這い登る。中程の平坦な岩場でひと息入れた。右側、深くなつた谷の向こうに巌山の西南尾根がゆるやかにくだる。岩尾根はさりに続く。傾斜は60度位はある。足を外せば一巻の終わりだ。Mさんも私より少し離れて必死に登ってくる。には好ましくないと書かれていたが、全くその通りでロープが無ければくだることを感ずる。



してい。全くすばらしい景観だ。

小休後、岩場を後に進み鳥ノ背の岩場に着く。三角錐の岩が長さ15cm前後に統一している。右侧斜面の下は完全に谷に落ち、左侧の斜面と急傾斜で樹林帯にぐだりでいる。一人とも音的には弱い。

私は岩の上端をつかみながら左侧の岩肌を「壁の筋道」で通過し、Mさんは岩に時がたり、手と足を交互に勉強しての「尺取虫」で通過した。

浪り終えて相まんは、「ほんまに、この山、何んちゅう山や、これが最初で最後やなあ……」と舌を拭きながら笑顔で言っているが、Mさんの気持ちちはよく分かる。激しく辛い登高だが、心のなかは大満足なのだ。私も同感だ。

馬ノ背を過ぎると岩尾根は終わり、標間の山腹急斜面を登ってようやく山頂からくるだる主尾根に着く。右に方向を変え、巌山北面の山腹をぐんぐん登る。左の標間から先程通過した灰色の岩壁や、谷底から高く突き立つ一本の岩峰を見る。この谷が霧におおわれた時の幻想的な光景を想像した。

10時25分、3号三段点の標石埋まる抜

に囲まれ展望は無い。しかし、その静寂感、深々とした山の美にこの山の個性を感じた。

休憩後、両方向に森林帯をゆるやかにくだって行くとすぐ右に柿平(上ノ平)への下山道を分ける。さらによっすぐ行くと少しで樹林が切れ、眼前に大塔山から半作業に至る屏風のよう大きな山並みが望めた。さうした法師山への尾根もよく見えていた。ここで簡單な昼食をとりながら心ゆきまで展望を楽しんだ。

ここから西南尾根をくだる道もあるが、迷路りなので元の分岐に引き返し、11時過ぎ、柿平への樹林のなかの急坂をくだる。やがて村の共同アンテナに着くと、ここにも南北方向にすばらしい展望が広がっていた。

身近な坂道をぐんぐんくだる。登りの岩尾根と違ってとても歩きやすい道だ。いつの間にか西南尾根を分け、右に谷が形成されていた。所どころに露出する黒いケーブル線を見ながら南にのびる尾根をくだる。どこか遠くで12時を告げるサイレンが鳴っている。樹林になつた山道を黙々とくたり、伐採された山腹に出ると民家の屋根や安川の流れを見る。12時15

とは攝理だらう。

1時間遅登ると岩尾根はいったん畠庄い平坦など一ヶとなり、左へ廻り込んで行く。北に明るい山並みと谷間で故郷の和田の集落を展望し、手前に巌山の膨

大な山腹を仰ぎ見る。

少しだって薄暗い樹間の鞍部を過ぎると、また岩尾根となり気を引き締めて登高する。大きな岩に突き当たるとルートは岩尾根から左にそれ、急斜面の山腹につけられた踏み跡をテープを求めて、ラバースする。途中から大に難って山腹を急登し元の岩尾根に戻った。歩き道上部の木に「みちくさ新道」と小さな道標がぶら下がっていた。

尾根のすぐ下にローソク岩が岩尾根から突き出るよう衝立っている。尾根を登り大きな岩の上部に出るとしばらくして、岩が南側の山々が重疊と続いている。この岩は谷に直角に突き出た細壁で、足元は目も眩むばかりの深い谷になっている。このあたり常緑樹が多く、岩と樹のコントラストが日本の山岳風景を呈

(平成9年11月9~10日歩く)

△コースタイム△

法師山登山口(1時間20分)→3334m(1時間30分)→主稜線(40分)→法師山(1時間40分)→法師山登山口(バス停・苔口まで徒歩約3時間)→中道和田分岐(40分)→巌山登山口(3時間40分)→巌山山頂(1時間20分)→(3時間40分)→苔口(1時間20分)→(8合泊)

民宿「やまとひこ」0739(63)0131

*このコースは定期バスでの登山は無理。特に苔口から法師山登山口の京小屋谷橋までは徒歩で往復6時間はかかるである。

日本靈山紀行 番外編（補遺）
連載 『甲斐國志』

浅野孝一

江戸期、国内の治安が良くなると多くの地誌が作成されるようになつた。地誌を作成するにはいろいろな目的、意味があるが、一つには幕府及び各藩内の地理、風物、物産、民生等を知るというところにあると考えられる。

しかし、地誌を作成するには多大の費用、人手、監修者が必要であり、それを実際に積む上手者などいなければなりません。

江戸期、元禄・享保・寛保・宝曆・明和・安永・寶政・享和年代に『東海志』『佐倉風土記』『京師経記』『国地誌』『甲斐國志』『北條開拓』『豐後國志』等々の地誌が続々と編纂された。

の「よき江戸」で説いてあることが必要である。また、その内容は本郷に別れ、皆伊藤・山田源・吉林忠・神村源・人物部分などである。それがまた西郷は山梨縣方力統一に難済武田勢を八代松西村の領主として領地を分割しておられたのであるが、それもまた西郷は山梨縣方力統一に難済武田勢を八代松西村の領主として領地を分割しておられたのである。

山梨縣を代表する山、金峰山について「山梨縣志」によると、山田源第一・日野源也が山岳を題して「金峰山、金峰山、金峰山、山東・山南・山北」と題しており、その山と伊豫源が山東・山北の山と並んで山である。

山では無い。世に男の中の男も稱めて裸山といふ語があるが、金峰山も同處へ出でて山頂の裸木を具へた山の山である。

「甲斐國志」には奥伊豆の山々ばかりではなく、南下する山々を始め、富士山、二子山・御坂山腰から大菩薩連峰・源氏山・丹波・夷守摩など丹波北端の山々にわざわざある。

山梨縣を代表する山、金峰山について「山梨縣志」によると、山田源第一・日野源也が山岳を題して「金峰山、金峰山、金峰山、山東・山南・山北」と題しており、その山々については森島其道が調査しておられた時代に入ってきた武田えもや木暮元彦が山岳などの自然の資料に使用している。

中である「山梨縣志」においては甲武郡

金峰山脈にあたる山に、二子・其

・源氏山など、入城式新羅の山の複数

天台山・龍藏山・鎌倉山・鶴鳴山・鎌倉山

・大藏山・佐原山・神奈川山等が記載され

てあるが、入城式新羅の山の複数

天台山・龍藏山・鎌倉山・鶴鳴山・鎌倉山

・大藏山・佐原山・神奈川山等が記載され

るが、甲府の間を往来して完成を急がせた。江戸・甲府の間を往来して完成を急がせた。江戸・甲府の間を往来して完成を急がせた。

編纂者の内藤・森島・村松はそれぞれ在野の学者で著書も多數あった。松平定能は編纂に当たり、各人に十分の資格を持ち優秀した。地誌作成には膨大な資金と努力が必要であった。『甲斐國志』編纂に関する資金は全て松平定能が負担している。その故か「甲斐國志」には松平定能編輯としか記載されていない。

そのことに間に「甲斐國志」の校訂にあたった佐藤八郎は、「當時の風として、甲斐國志には廣古史能理、人の名を出しながら、内藤ら編さんしたたた人がどの名は全く跡がない。しかし定能は、内藤以下の苦労を深く感し、それには高齢を以て謝意を表した。即ち内藤清右衛門に對し「誠て精機、志扶三分ノ義」、小笠原次郎へ「余古事記村の森林外土郎にも關物があった。」と記している。

改稿のことはあるが、山梨県は各人の著作に敬意を表すものがある。大庭にそれはそれでその題の碑を建て、その功績もたたえている。

重装備で山のハシゴをした

編笠山と茅ヶ岳

松田敏男

北巨摩

中央自動車道を北上しながら黒い山並みを見て、懸念していたことが不安に変わっていた。森林限界の上と思われる高い所が白い世界になつてない。樹林帶には雪があるのだろうか。雪の上にテントが張れないのなら、どうやって水を確保しよう。下から持つて上がるとしても一泊分が限度だ。水の残量と食事の回数とを比べ、気にしながらテント生活するのも、気分的にも非常に厳しい。私は日常から離れて養生に山に入りに行くと、自分が基本の考え方だから、水の量を気にするというのは論外である。

二年前に行つた同じ八ヶ岳南端の西岳への山行は、雪の上に三連泊して快晴の運転手さんに尋ねてみる。運転手さんは「延命水がいいのではないか」と教えてくださった。延命水は編笠山の登山口にある。水は絶えることなく流れているという。「じゃあそこまでお願いします」ということになった。地形図には延命水という表示はないけれども運転手さんの情報は信頼できる。車道沿いながら山の高みに走り去つて行く音が鳴きながら山の高みに走り去つて行く音が鳴った。今まで私の行動を私の心を見ていたのだろうか。テントのポールをばす音が虚空に吸収され、テントにボルを差し込んで設営が済むと、もう自分の動く音のみの世界になった。下界に灯がつき始めて、動いている小さなライトに、わずかに人の生活の呼吸を感じとれる。



延命水という言葉がものすごい深さで実感できた。振り返れば甲斐駒ヶ岳がほの暗い姿で眠りに入らうとしていた。突然鹿が鳴きながら山の高みに走り去つて行く音が鳴った。今まで私の行動を私の心を見ていたのだろうか。テントのポールをばす音が虚空に吸収され、テントにボルを差し込んで設営が済むと、もう自分の動く音のみの世界になった。下界に灯がつき始めて、動いている小さなライトに、わずかに人の生活の呼吸を感じとれる。

ガスコンロの火をつければあたりは突然夜となつた。背後の山の中でもまた鹿が鳴く。養生に来た実感でふつぶつと体が熱くなる。最近のアルファ化された米は格段においしくなつた。みそ汁やお茶漬けなどもすいぶん食べやすくなつてきて、十分間に合うから、来しめる年始期限が過ぎることができるようになつた。テントも一枚もので冬でも寝袋でない限り十時間に合つて、来しめる年始期限がどんどん先へのがれゆく。そして出色的の装備品は空氣マット。これによって銀マットだった時の地面のゴツゴツ感が全く無くなつて快適そのもの。新しい素材のお

西岳に立てたこと、テントのすぐ近くで会話をしているように鹿が數頭鳴き続けたあの甘い声、私の経験では最も長い三日半、人間に会わなかつたことなど、非常に印象深い内容だった。それはすべての音を吸収してしまう当のなかだからこそ、そう静かな山行の印象になつたと言えども、その印象は大きく深くなつたと思われる。

さて、そんな二年前の山行を思い起こしながら、茅ヶ岳に着きJRに乗り換える。八ヶ岳はぐんぐん近づき、頂上部の岐々なる岩峰群が黒く亮明に見えてきた。登る予定の三ツ頭を凝視する。山頂より右へ登る予定の稜線上はかなり上部には

かげで私は幸せな時代に生きているなあと思いながら食事をした。装備が発達して軽くなったぶん、酒も飲める。そして食後のコーヒー。眠りにくくなるから下界では眠る前に絶対に飲まないが、今は飲みたくなつたら飲めばいい。水の流れの音、風の音、そして時おり鹿の声、まわりは眠りを誘うあたかな音でいっぱい。じつと聴いてみると、じつと聴きながらそのなかに身を投じいると、いつの間にか眠りのなかにそれらが遠ざかっていた。

翌朝はやや曇りがちな空だったが、甲斐駒ヶ岳もその左奥の北岳も顔をのぞかせていて、まだ薄暗いなかを林道を少し戻った地点からササのなかの細いがはつきりした道を登る。観音平からの道が合えばメインルートとなるはずだから不安はない。林道終点の観音平へ直接くだる道が多く使われているから、尾根通しの道はあまり歩かれていなくてササが生え込んでいるわけだ。しかしある日が昇らない時刻なので、ササの海のなかをさまよっている感じだ。少し登ると落葉松林がササにとって変わり始め、道がはつきりしてくる。その林に光が当たりだした。



やはり太陽はありがたい。にわかに気分が晴れやかになる。テントはそのままにしの日帰り登山の気運さだ。それほどに要望がさかない展望台にはすぐ着いた。

少しゴミが口に付くあまりきれいではない所で、右からの道が合流した。少し明瞭な道となると段上の雪面展望台に向かう。休まずに歩き続ける。雪があれどテント場にて考えていた雪面展望台に着いた。小高い所を下りてから積もつていれば、なかなか良いテント場になる所だった。南アルプスは下の延命水の所からよりもすっきりとした形に立ち上がる。て見えていた。

右からの道を合わせて広い道となつた。水も得られない程の雪がぱつぱつ右に見え始めたが、いくら歩いても雪の量は増えなかつた。編笠山の南斜面を登る分校に着いた。右に青年小屋へ行く焼き道が分かれている。全く無雪期の風景。ここからの南斜面は地形図の上で見る限り尾根を登るという感じではないので、雪が積ついたら雪崩の危険があるのでないかと思つて登った。積雪期なら富士見高原から登つたほうが安全だと予想していたのだが、今は悲しいことにそんな心

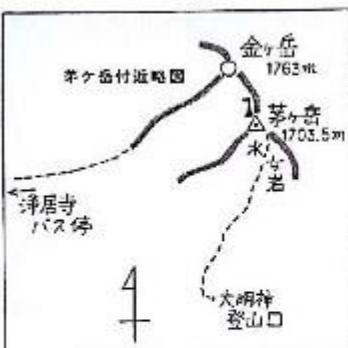
配は全く無用だ。岩角がゴツゴツ現れ始めた雪の無い斜面を登る。嵩山植物が咲いていたらしいのにと無理な要求が頭をよぎるぐらいだった。最後のつめは墨々とした岩の斜面になり、こんなことではよいのかと思う感じであつたりと編笠山岩と岩の間に雪が埋まっているだけ。前の景色を見ていつもその思いになつた。赤岳・横岳・阿弥陀岳・龍飛岳が疊り空のなかに黒々と活躍んでいて、素氣ない光景だつた。西岳登山からあまり間を置かず近くの山に来てしまつたのも悪かつたかなと思いながら、雪の無い岩の上に腰を下ろして、黒い岩峰群を眺めた。写真を撮り、絵を描いた。すばらしい風景なのだが、やはり冬の衣装をまとめて座やかしく光つていて欲しかつたといふ思いが、どうしても頭から離れなくて寂しかつた。男性が一人登つて来られたのを機に下山した。

少しきつた所の枯木のある小さな台地が、南アルプスを見るのに恰好の展望台となつていて、またそこでゆっくり寝つて絶景を描いた。南アルプスは北斜面を見ることになるので、白かった。北斜

るより、山頂にテントを張るという最近珍になりつつあるスタイルを茅ヶ岳に求めることにした。

茅ヶ岳(1704m)ぐらいの高さの山なら安心なので、ゆっくら山頂でテント生活が楽しめる。ただしピッケル・アイゼンが必要で、途中の水場で水をしきり補給しなければならないという条件付きである。

八瀬沢駅まで單純な林道を歩き、JRで並駆まで移動した。また登り口まではタクシーのお世話となる。こんな冬の年末なら静かな山だろうと思っていたのに大きな間違いがあった。大明神登山口にバスが停まっていたのだ。エンジンをふかしながら運転手さんがおりてくる登山客を待っている。ああこの山には團体さんが登っているのだ。女岩まではそんなことを忘れてしまう程静かで、落ち葉を踏みしめる足音歩きだったのだが、女岩に着くと数人のパートナーが二組休憩しておられた。ここは日帰りの山である。皆さん軽装である。それなのに私は冬の道具、泊まりの装備羽毛服からアイゼン・ピッケルまで大きなキスリングに詰め込んでいる。見た目にはとても山で養生込



は他の山の奥に神々しい白い山となつて特に美しかつた。

その夜は意外にも雪になつた。さうさうとテントに雪のかかる音が心にあたつた。起きた時は曇り空だったが、テントをたたむ頃には晴れてきた。もう一度雪を頂いた編笠山に登ることもできただけだが、気合いが入つてゐなかつたから起きのを逃がつた。テントもたたんでしまつたので次の山へ移動することにした。次の山は茅ヶ岳である。編笠山が視界がないほど天気が悪かつたなあ、さようも編笠山に登るということになつていただろうが、同じ山に一日続けて登

るスタイルではない。冬の日だまりのファンティハイクの世界に突如現れた重装備の単独行者。ああどんな目に見られるのだろうか。どんな問い合わせを受けるであろうか。私は無言ですれ違いつたけれども、ここで水を補給しなければならない。

「縦走ですか」と元気に尋ねてくださる。この独立峰でどこへ縦走すればいいのと付けなくなる。あいまいな会話を少し疲れながら、小さく増えた荷物を持って上へと向かつた。急斜面のシグザグの登りでは、たくさんの人たちが歎声を挙げてくつたつてくるではないか。ああ次々に声をかけられるのか。私は急斜面にもかかわらず強引に少し道からはずれて落ち葉のなかに身を伏せた。20ほど下の道を年配の人たちが口々に話をしながら歩いて行く。どうしたものか次々にけつますいたり、尻もちをついたりしている。

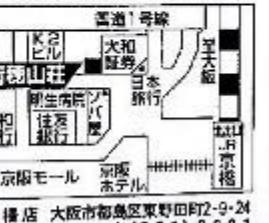
山歩きの一番重要なポイントは…「靴」です。

「靴」の選び方、合わせ方次第で、山行きが楽しいものになるか、終始苦痛なものになるか、それはもうエライ違いです。初心者から上級者迄あなたの足に合う「靴」をアドバイスいたします。又、自分の山行に合うグループの紹介もしております。

○山用品は全て安く揃います
●登山・山スキー・専門店



青穂山荘



京橋店 大阪市都島区東野田町2-9-24
TEL 06(351)8691

◎格安日帰り山行 各¥3,900!! (土祝日増)

吉野・青根ヶ峰

蜻蛉滝から静かな冬の吉野山へ

①12/2(水) ②12/4(金) ③12/23(水祝)

比良・武奈ヶ岳

展望抜群の比良最高峰へ

①12/8(火) ②12/16(水) ③12/19(土)

京都大原・金剛羅山

大原の里を望む山道を寂光院へ

①'99/1/8(金) ②1/13(水) ③1/24(日) ④1/26(火)

鈴鹿・御在所岳

往復ゴンドラ利用の雪上ハイキング

①'99/1/10(日) ②1/20(水) ③1/23(土) ④1/28(木)

*上記4コースにはお弁当がついておりません。昼食は各自ご用意願います。

◎国内 秋冬の特別プラン

伊豆・天城山 伊豆半島の最高峰、万二郎岳～万三郎岳を巡る

11/14(土)～15(日)夜行日帰り ¥19,800

雲仙普賢岳・阿蘇山・九重山 九州の名峰と温泉泊(軽井沢線)

12/5(土)～7(月) 航空機利用 ¥57,800

◎この季節がベストシーズン! 南半球の旅

ニュージーランド ミルフォードトラックと

マウントクックハイキング 12日間 ¥478,000

①12/6(日)～17(木) ②'99/3/7(日)～18(木)

◎「アジアの最高峰に登る」シリーズ

台湾最高峰 玉山(3952m)登頂4日間

12/10(木)～13(日) 海外の山でこのお値段 ¥128,000!!

韓国最高峰 漢拏山(1950m)登頂3日間

'99/1/22(金)～24(日) 海外の山でこのお値段 ¥88,000!!

国内から海外の山までおまかせ下さい!! 登山・ハイキング専門の旅行社です。

◆上記コースは全て大阪発です。全コース、ツアーリーダーが同行いたします。

◆女性お一人様からでも、気軽に申し込み下さい。

総合(国内・海外)パンフレット、

海外山行の詳しい資料をご請求下さい。(無料)

アミューズトラベル株式会社 Tel.06-265-3303

運輸大臣登録旅行業第1366号 (社)日本旅行業協会正会員
〒541-0053 大阪市中央区本町4-5-3 本町三井ビル2号館 8F

斜面を登り始めた。尾根に出た所で上から人の声が近づいてきたので、ちょうど二本に分岐している道の選択のほうで休みながらそれ違うのを待つことにした。そしたら私の姿を見つけたのだろう。枝がかかる私のいる道へ来られた。茅ヶ岳は交通が不便なのに有名になりました。過ぎた山なのなどあと、つくづく思つた。



金ヶ岳より八ヶ岳を望む

山頂は広かった。どこでテントが張れる広さはあったのだが、地面がグジューなのだ。霜がとけて水はけの悪い土の上で泥濘と化していた。金ヶ岳への登山道に入る所のまだ泥化せず草が生えている沢木に開まれた狭い所に張ることにした。少し斜面で石も出ているが、泥の上に張る気はない。きのうのテント場よりもここのはうが標高は高いのに、そして今朝のテント場には雪が積っていたのに、ここには雪がない。雪があれば広い山頂にゆったり張れたのに。東斜面の下の方では先ほどから雪のうめくような鳴き声がしていた。乾いた獣糞の音も聞こえる。ああまた鹿かカモシカが殺されている。悲しい山頂だ。

翌朝はすばらしい快晴だった。泥濘だった山頂は土のでこぼこの形がそのままに凍っていた。富士山が美しい。とても美しい。分刻みで明けてゆく大空と富士山の写真を撮った。羽衣服が役に立った。

金ヶ岳への尾根道は、所どころ太い幹

があって、金ヶ岳や八ヶ岳をバックに快

晴の日だまり里山気分が満喫している所

だった。幸せだった。白いブナの幹に手

を当てるど、生きている喜びが長者のブ

なみつくり変えられていた。

八ヶ岳はきょうも白くなかった。こち

らを選んでよかったと思った。あとは長

い良い道のりを正面にそびえ立つ甲斐

八ヶ岳の高い峰を仰ぐことだけをよりど

ころとして歩きに歩いた。

(平成9年12月26日～28日歩く)

▲コースタイム▼

(27日) 延命水 (4時間30分) 編笠山

(3時間) 延命水

(28日) 大明神登山口 (3時間30分) 茅

ヶ岳 (?時間) 清居寺バス等より山へ約

しき付近

△地形図▽

2万5千1小瀬沢・八ヶ岳西部・茅ヶ岳・

若狭子

スイスアルプス山旅記

塚 元 一 彦

スイス

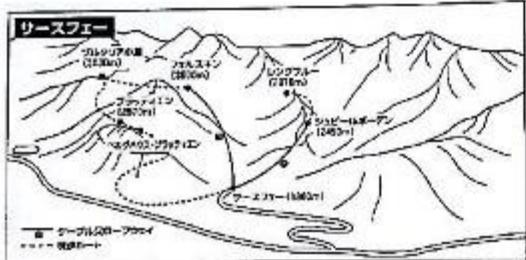
スイスへ

近畿日本ツーリストから新ハイキング関西「スイスアルプス・ハイキング」の企画が持ち込まれたのが、昨年の10月。村田代表からリーダーとして行ってくれないかとの依頼があり、これを引き受けた。3・4月号(2月発送)で発表したところ24人の応募者があった。男14人、女20人と圧倒的に女性優位のパーティである。

7月9日明け7時、関西空港ターミナルビル四階の團体受付に集合。メンバーは日頃クラブの山行で顔見知りになつている人が多く、「一般募集のバックツアーのようなよそよそしさはない。出発手続き

を終えてアリタリア航空79便に乗り込む。MD-11機は定員280人だがほぼ満席。スイスに行くのにイタリア経由というのが一旦不可能だが、目的地によってはチニーリッヒやジュヌーブ空港よりミラノ空港のほうが便利なのだ。

西へ飛ぶときは太陽を追いかけるため、遅くなるときは太陽を追いかけるため、雪を頂いたアルプス山塊の上を飛んでイタリアに入るが、山座同定は無理。関西空港発11時10分でミラノ空港着16時40分。時差とサマー・タイムの関係もあって、時間を得したような気分になる。



んでいる。朝の透明度がすばらしく、そのまま飲みそうのが表しまし。有名なコモ湖もここから東へ約30kmと聞いて、何となく納得した。

サースフェーで

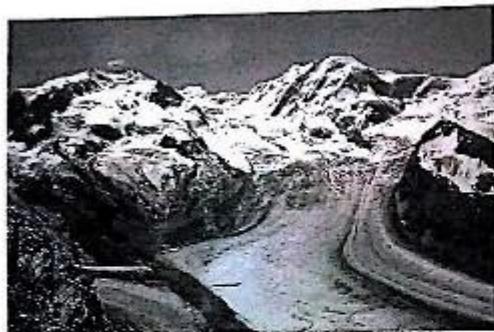
7月10日。鳥の鳴き声で目覚めるといふのはリッチな気分の朝である。朝食は

パン・トースト・ハムソーセージ・シリアル・フルーツジュースが、それぞれ複数並んでいる中から選ぶヴァイキング方式、牛乳・卵料理・コーヒー・紅茶もある。10年前のヨーロッパは、各国ともパンとコーヒー(または紅茶)だけのいわゆるコンチネンタルブレックファーストだったが、外國からの旅行者が多くなつて次

第1回にアメリカンスタイルに変わってきたという。特にパンとトーストの種類が多く、それをとっても日本にはない味を楽しむことができる。この後各地のホテルでもおおらかなイタリア式で無事解決。この村は夏の避暑地で、湖の向こうに見える山々はアルプスの南端だ。中高年の良朋滞在客が多く、のんびりと夏休みを楽し

めている。湖の透明度がすばらしく、そのまま飲みそうのが表しまし。有名なコモ湖もここから東へ約30kmと聞いて、何となく納得した。





モンテローザ（左）とゴルナー氷河（撮影 中川光郎）



マッターホルン（撮影 中川光郎）

なる。国境の待つ意味も変わってくるのではないか。

さうに高度を上げシップロン駅まで来ると、ここがイタリア語圏とドイツ語圏の境界。住宅のスタイルがはつきり変わり、石の屋根から瓦葺きになる。生活様式が国境ではなく、言葉の違いで変わるのがおもしろい。11時20分、標高1,800mのサースフェー着。レストランで昼食の後、直接山に向かう。ロープウェイはランチタイム休憩をとっていて、12時30分によく運行開始。2,450mの中间駅ジエビールホーテンで降り、2,870mのレングフルーまでのハイキングだ。きょうは初日とあって足慣らし程度だが、尾根道のすぐ横の谷はフニー氷河。アラリンホルン（4,027m）に源を発する氷河が、このあたりで急降下するためひび割れを生じて、大きなクレバスが

たから約4倍。日本の山小屋と同じ程度の倍率だった。ここで初めて日本人の团体客約20人と出会った。

小屋を後にテレキャビン終点のフルスキン（2,999m）まで来たが、まだ14時。時間に余裕があるので、オプションでミッテルアーリアン（3,454m）まで足をのばすことにした。アルプス地下鉄に乗り500mの高差を15分で駆け上り、駅の外に出ると一面に氷と雪の世界。アラリンホルン・アルブフェーベル（4,206m）、タクシホルン（4,490m）、ドムの峰々に囲まれ、見上げると首が痛くなるほど近い。氷河の色もここでは青に変わっていた。

メトロ、テレキャビンを乗り継いでサマーに帰る。今夜の夕食は各自負担のたる有志を説いてバスク料理を食べに出かけたが、フルーツ・ジャムよりビルのほうが安いというのが気に入った。

ツェルマット

7月12日。バスでツェルマットへ移動。約40分で鉄道駅のジエビールヴァーレンに着く。一般自動車はここまでで、観光客はすべて鉄道でツェルマットに入るところとなる。約20分の旅で着陸駅に着く。閑静なサースフェーと異なり、ここは一大観光地だ。駅前商店街には観光客が群れており、日本人団体も果然多くなった。駅舎を出ると目の前にマッターホルン（4,477m）の岩峰がそびえており、早速早いカメラのシャッター音が聞こえる。タイミングよく手の群れの行進がやって来て、ここにもカメリマンが集つ

上がり、駅の外に出ると一面に氷と雪の世界。アラリンホルン・アルブフェーベル（4,206m）、タクシホルン（4,490m）、ドムの峰々に囲まれ、見上げると首が痛くなるほど近い。氷河の色もここでは青に変わっていた。

メトロ、テレキャビンを乗り継いでサマーに帰る。今夜の夕食は各自負担のたる有志を説いてバスク料理を食べに出かけたが、フルーツ・ジャムよりビルのほうが安いというのが気に入った。

ツェルマット

7月12日。バスでツェルマットへ移動。約40分で鉄道駅のジエビールヴァーレンに着く。一般自動車はここまでで、観光客はすべて鉄道でツェルマットに入るところとなる。約20分の旅で着陸駅に着く。閑静なサースフェーと異なり、ここは一大観光地だ。駅前商店街には観光客が群れており、日本人団体も果然多くなった。駅舎を出ると目の前にマッターホルン（4,477m）の岩峰がそびえており、早速早いカメラのシャッター音が聞こえる。タイミングよく手の群れの行進がやって来て、ここにもカメリマンが集つ

ていた。

眼前の登山電車駅からゴルナーグラート（3,130m）に向かう。列車の窓の外には針葉樹の林が続き、その先の草原にはハイカーたちを見ることができる。1500m高さ差を約40分で登り、展望レストランのあるゴルナーグラートに着く。そこにはアルプスのど真ん中。モンテローザ（4,634m）、ブライトホルン（4,169m）がすぐ近くに立。白の山容を見せ、眼下にはゴルナー氷河の広い河床が横たわっている。マッターホルンの背には有名なヘルンリ小屋が遠望できる。スイスアルプスの中でも最も黒鍊の優れている場所であり、ツェルマットといふ町はマッターホルン一つに寄りかかって生活していることがよく分かる。

登山電車で中間駅のローテンボーデンまで引き返し、リッフェル湖のはとりで温泉。きょうの日本食の弁当はよくできていた好評。冷奴まで入っていたが、スープはどうやって豆腐を手に入れるのか。湖とは言うものの、小さな池にすぎないが、風が止むと池の面に逆さまマッターホルンがきれいに映っていた。ここからグレン湖まで約3時間のハイキング。この

り込む山道の橋が切れ込んでいる箇所が現れたが、固定ロープが用意されており、慎重に進めば特に危険はない。チングルで轟然しか動かないが、周囲の山々は全てこの氷河が削った岩の塊であることを思うと、自然の力の大きさが分かる。

往路を引き返してホテル着は17時過ぎ。夕食までの間、村の中を散策する。カソリックの教会を中心にして約1kmのメインストリートがあり、土産物屋やレストランが並んでいる。この村はツェルマットの東の谷底のスキーリゾートで、夏のハイキングコースも数多く、アルプスの真珠と呼ばれている。ヨーロッパ各国からの観光客が多数訪れているが日本では知名度が低いため、日本人の客は私たちだけのようだ。環境保護のため一般自動車は村外の駐車場まで、街の中は全て電気自動車だけというのも日本の観光地でも見習ってよいことだ。

7月11日。ホテルを8時に出発し、昨日と同じロープウェイ駅まで歩く。きょうは方向が変わりテンギヤンでアラティエンまで行き、ここから草原のなかを歩き始める。太陽は出ているが、2,570mの高地の朝はさすがに肌寒い。谷を廻り大きな散歩道を徐々に高度を上げて行くと大きな雪渓が現れた。はるか向こうに見えるのがブリタニアヒュッテらしい。雪面からの照り返しがきつく、目を焼めず、珠と呼ばれている。ヨーロッパ各國からの観光客が多数訪れているが日本では知名度が低いため、日本人の客は私たちだけのようだ。環境保護のため一般自動車は村外の駐車場まで、街の中は全て電気自動車だけというのも日本の観光地でも見習ってよいことだ。

3,000mの雪原のなかで昼食。サンドイツだけでは不足かも知れないと旅行社がおにぎりらしいものとエビの煮物をプラスしてくれたが、全くの不味。ヒュッテの岱ビールは5.6F（一スイスフラン90円）。村のスーパーでは1・25SFだつている。

現れたが、固定ロープが用意されており、慎重に進めば特に危険はない。チングルで轟然しか動かないが、周囲の山々は全てこの氷河が削った岩の塊であることを思うと、自然の力の大きさが分かる。

往路を引き返してホテル着は17時過ぎ。夕食までの間、村の中を散策する。カソリックの教会を中心にして約1kmのメインストリートがあり、土産物屋やレストランが並んでいる。この村はツェルマットの東の谷底のスキーリゾートで、夏のハイキングコースも数多く、アルプスの真珠と呼ばれている。ヨーロッパ各国からの観光客が多数訪れているが日本では知名度が低いため、日本人の客は私たちだけのようだ。環境保護のため一般自動車は村外の駐車場まで、街の中は全て電気自動車だけというのも日本の観光地でも見習ってよいことだ。

豪華な散歩道を徐々に高度を上げて行くと大きな雪渓が現れた。はるか向こうに見えるのがブリタニアヒュッテらしい。雪面からの照り返しがきつく、目を焼めず、珠と呼ばれている。ヨーロッパ各國からの観光客が多数訪れているが日本では知名度が低いため、日本人の客は私たちだけのようだ。環境保護のため一般自動車は村外の駐車場まで、街の中は全て電気自動車だけというのも日本の観光地でも見習ってよいことだ。

豪華な散歩道を徐々に高度を上げて行くと大きな雪渓が現れた。はるか向こうに見えるのがブリタニアヒュッテらしい。雪面からの照り返しがきつく、目を焼めず、珠と呼ばれている。ヨーロッパ各國からの観光客が多数訪れているが日本では知名度が低いため、日本人の客は私たちだけのようだ。

向かって突き出している。グレープのなかで「煙突マン」といわれている、高い所の得意な男性がさそくよじ登った。仁王立ちのギースをとり、近くで弁当をとつていた別のグループの団体を窺ひてゐるが、こわいはビヤヒヤしながら眺めるばかりである。

まだくだりが続く。ジグザグの細道が幅の広い道に変わったと思うと、今度は直線路だ。ロープを繋ぎにやつと平坦な場所にたどり着いた。頂上から、一気に300m近くおりて来たことになる。ヤケオ山のくだりは長くて厳しい。

ほっと安心したところで、にわかに窮屈感を覚えた。時刻ももう6時になると、地図上で大石というあたり、縦走路を離れて支尾根を西に入った緑林の中は適当な標識を見つけ、大休止にする。おでんに冷奴、鶏大粒の黒い煮豆、コンロで温めたイワシの缶詰などをみんなで分け合い、食後のコーヒーまでついて、このグループの昼食は相変わらず豪勢なものである。

1時間ばかりの昼食時間を経て、13時15分出発。碓木帯のなか、腹巻のない尾根道を歩いて15分ほどでヤケ山を通過

した。急坂をくだり、何處かの狭いアッパタウムを振り返し、寒風舞には時間分に到着した。

ここから露峰・椿橋の道を越えて北小松駅にかかるのが当初の計画だったが、時間が余るのでもう少し足をのばして滝山まで行くことにした。滝山からオトンの中心を通って源峰に出る迂回コースである(の)ルートで何度も走っている道だが、実はこれが通算となって、途中(さうかり)ルートを間違え、露峰・椿橋の道はペスしてしまった結果となる。

船川越えから岩阿弥村山方面への標識に従って、縦走路を北に向かう。しばらくはササ道の登りが続く。小ビーグーを一つ越え、三つ目のビーグーにある大きな岩の壁を抜けると、尾根に沿つて道は東に向転換する。縦走路が今度は直角に左(ひだり)に折れる所に滝山への表示があり、縦走路を離れて1分弱で滝山(テラミダ)に着いた。寒風峰からは25分ほどかかることになる。

山頂は狭く展望もない。東に少し下った

ところから道と合流して、15分くらいで平らな所があり、ここでゆっくり休憩することにした。早くも白い小さなキンラ

ンを見つけた女性が、ていねいに花の周りを土で囲っている。

頂上から縦走路の方へ数段下ると、左に折り返すように踏み跡があり、これをたどることにする。踏み跡はすぐササのなかに消えてしまうが、かまわずササをまたぐことにした。滝山からオトンの

中心を通って源峰に出る迂回コースである(の)ルートで何度も走っている道だが、実はこれが通算となって、途中(さうかり)ルートを間違え、露峰・椿橋の道はペスしてしまった結果となる。

船川越えから岩阿弥村山方面への標識

に従って、縦走路を北に向かう。しばらくはササ道の登りが続く。小ビーグーを一つ越え、三つ目のビーグーにある大きな岩の壁を抜けると、尾根に沿つて道は東に向転換する。縦走路が今度は直角に左(ひだり)に折れる所に滝山への表示があり、縦走路を離れて1分弱で滝山(テラミダ)に着いた。寒風峰からは25分ほど歩けば、右(西方向)に分かれ支尾根があり、これをくだると湿地帯のオトンのなかに入つて行くのだが、気分よく歩いているうちにうっかりこの分歧を通じて迷ってしまった。道が悪くなってしまったので、すぐ間違くに気がついたが、引き返すのも面倒なのでひと足跳ぶのをそのまま行くことにした。この道はほとんどのところをぐるぐるして、奥深く入り込んだので、そのまま行くことになった。

山頂は狭く展望もない。東に少し下った

ところから道と合流して、15分くらいで平らな所があり、ここでゆっくり休憩することにした。早くも白い小さなキンラ

いい加減うんざりしかけた頃、ストンと舗装道路に出た。北小松ヒルという別荘地の北の端あたりである。淨水タンクがあり、そこにはきれいな水が流れている。

ここからは広い道路を歩き、途中、湯瀬の池から道と合流して、15分くらいでJR北小松駅に着いた。

今回は、うつかりミスでコースを外してしまったため、予定していた帰路の見物はできなかった。本日の区間は、二つ。その一、時間が余ったからといって、むやみに計画したルートを変更しないこと。その二、何度も通った道だからといって、油断しないこと。

(京都北山グレープ便観)

平成19年5月10日歩く

パリ(Parus palustris)

ラン科

ブリムのあの甘い香り…あの香りの正体は、実はパニーリーンズという豆だということを理解しよう。

パニスは、メキシコ東南部～中米の原産で、現在ではメキシコ・トトアインボンダ等で産出されている。君の「一種の多肉の草本の草本植物」だといふことを理解しよう。

始め葉は緑色で、やがて光沢のある紫褐色に熟し、多數の黒色の種子を含む。この果实をエタノール抽出したものがいわゆる「ラエラセンス」で、味・香りをもつて用いられる。乾燥したものは「ラビーンズ」とい、シロップで煮て香料を移したり、リキュール原液、また砂糖の中で保存して香りが持つ。

食用にするのは良葉で、落葉の灰葉が貯蔵した際の「酸臭」を取除く。

フェノール類(ビニン・ビペロナール、アニスアルコール)、胡麻油や胡麻油等の揮発性の揮発性を用いて利用されている。

連載 フンザから

ギルギット・ベシャーム・タキシラへ

芝野泰明

バキスタン

第七日目（晴れ）
フンザからギルギットへ
往路をフンザへ引き返す。二日間の時天で杏の花は満開になっていた。さうはギルギットまでのわずか100kmばかりの旅なので、酒抜けの杏の花見の宴に興じたり、バスを停めて一萬千金を目論んでガーネットの原石拾いに夢中になるが、大きいと喜んだのはたいてい山羊の糞であった。

13時、ギルギット着。期待していたセレナロッジに入る。昼食後、見物に出かける。ギルギット川の上流に向かって5km行くと灌漑用道路の上に高さ30m程の岩壁が現れ、その中腹に3層弱の仏像の羣であった。

第八日目（曇りのち雨）

ギルギットからベシャームへ

きょうはベシャームまで約350kmの長距離なので早朝の7時30分出発。往路で昼食をとった小さないなレストランで小休。天候は次第にあやしくなり、ついにフロントガラスに雨の粒が落ち始めた。対向の大壁トラックが積載過重から橋板を破ってタイヤが陥没し立往生している。双方共窮屈のとれない状況ではらくは復旧の見込みは立たないらしいが、ドライバーたちは皆んな高見の見物で愚痴つたり寝組ることはない。私たちも見習って運を天にまかことにした。1時間半ばかり寝眠りした後に、大きな荷物は車に載し、貴重品のみを持って、ガイドの誘導で小雨のなか徒歩でトラックの袖を通って橋を渡り、向こう側に停まっているズスキに乗車できたのは幸いであった。

ズスキとは小型トラックを改造した小型乗合バスで、荷台の両側にシート席があり、中央は立席で吊り輪が下げてある。中央は立席で吊り輪が下げる。現地と名前で創立されたズスキ自動車の製造でその名がある。ペトナムのホンダ

と同じだ。このズスキに全員収容されて降雨のなかを1時間以上走り、荷いた所はドベール付近ではなかつただらうか。道端に面したレストランに入り、15時頃、遅い昼食にありつく。インダス川が窓下を流れる別棟の一室に移り、会話をなく、炊事の煙を波形鉄板の上に撇いてわずかの暇をとっている。皆んなシケた顔になってくる。2時間ほど滞在した頃、表が暗くなつた。バスが来たとの知らせに頭り上がりで駆けだす。目的地はまだ遠いので、まずは用便と落ち着きをよそおう。

ここで便所の形態を考察してみよう。本旅行中使用した便所が全て水洗式であったのは大きな驚きであった。商店施設の客室は洋式便器のみ。レストラン等には大小便器があり、小便器の位置は日本人にも適した高さである。大便器に金属の蓋を捨てられて便利だが、浄化槽の効率が悪くなる。土間を洗つた汚水も便器内に付けられ、土間で排水する。建物は鐵筋で、構造は日本風建築である。瓦・集成煉瓦・自然石。少し粗末が上がる。費用も安くなり、床張り半分、窓外の景色を見る余裕もなく車に体をまかせて

積造で、開口部に木材の臥柴を配し、軒高まで積み上げ枠をのせる。その上に何本か梁をかけ茅等で葺いた上へ土をのせて叩き固める。建築費に余裕のあるものは近頃では波形スレートや波型鉄板を葺き材とする。またまれにコンクリートスラブ（舗装）を打ったものもあるが、防水施工はない。

時間が経つにしたがって天候は悪化し、雷鳴も混じる豪雨のなかを疾走して19時30分頃ベシャームのP.T.O.モーテルに到着できた。降り続くなかを割り当てられたテラス様式の特別の客室に落ち着く。この先店には日本語の堪能な店員がいて商談上手。夕食後はただもう眠るだけ。

第九日目（雨のち晴れ）

ベシャームからタキシラへ

バキスタンに来てから早や二度目の不安がなく、十間より少し下げる。建物は鐵筋で粗雑で、構造は日本風建築である。費用も安くなり、床張り半分、窓外の景色を見る余裕もなく車に体をまかせて

た末、最後の手段を選んだ。悲しくも憎は殺害され、その遺骸はこの地に葬られ、そして平和は長く保たれたという。バザールの西の外れ近くにボログランドがある。ギルギットはボロ発祥の地でアラブ系の馬の背に褐色の肌の逞しい男が真紅のボロシャツ姿で踏がり、グランドを走り廻る姿は美しい。サグルバザールとカシミールバザールを歩き、干杏の実を買う。織工の店が多い。

高齢者は守護を授かれてると邊を奪われると今も信じているのでカメラを向ける。私がこの地を去ったなら再び巨人は復活するだろ」と。住民は驚いて僧がこの地に長く滞まるよう懇請したが、僧は修行中の身で、住民の願いに沿うことができなかつた。そこで住民たちは相談を重ね

関西の山日帰り縦走

中庄谷

直著 四六判・二〇〇円
六甲、比良、葛城、多紀、京都北山、湖
北、生駒、金剛…全48コース。

一日で縦走できるコースを厳選して地図
付で紹介。交通機関や所要時間も。

いるだけ、どこを走っているのか分から
ぬまま日時タキシラ着。

雨も止み気温も上昇した。昼食は鶏の
丸焼き、有名なあいシンカバブー。丸
焼きは北京ダックに似て焦げた皮が香ば
しい。シンカバブーはスパイスがよく効
いておいしい。

念願のガントーラの道跡の見学に行く。
タキシラ博物館の手前にボログランドが
あり、大勢の観客の喰声が高いう。地面に
半分埋められた木札を走る馬上から手槍
で突き取る競技で、グループごとに選手
を出して成吉を競うゲームで成功率60%。
立ち去り難い面待ちのガイドを促して見
物を切り上げる。

タキシラ博物館の入り口の大好きな樹の
赤い花はブーゲンビリア、白い花はチャ

ク。夕食20時、シャワーを浴び、間もなく就寝。

バキスタンでは100%近く見合い結
婚で、恋愛結婚はさわめてまれとされる
のは、今なお根強いカーストによるもの
と思われる。結婚の仲介者は理髪店で、
いわゆる浮世床だ。理髪師は店へ来る客
のほかに、出張を依頼する顧客も多いの
で情報豊富である。だから名寄せは予想
した女が結婚適齢期に達するとい、その店に
情報を利用する。

注目候補者が紹介されると、男とその
兄弟、両親及び親族が揃って娘の家を訪
問し見合をする。本人同士ははずかしくて顔を上げられないことが多いので、介
添者は丁寧に親引きに親き込むようにして
娘の顔を探る。結果後悔重に検討の末、
オーダーになると、仲介者に銀のコイン



ジョーリアンのガンダーラ仏

わづさか沢歩き [記録集] (近畿編)
同人わづさかわづか沢歩き 四六判・二五〇円
大峰、台高など 50沢を巡回四付で解説。

東濃80山最新情報。地図付 四六判・二五〇円

木曾川(3) 水系の山

木曾川 全三巻元結

*表示の価格は消費税を含み未税

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2
075-751-1211 〒606-8316

新刊

イナローズと教えられる。休日で大人も
子どもも見学者が多い。館内撮影禁止は
特別許可を得て可能になったが、監視員
はチップを要求する。特別室はコインルームでインドビクトリア朝のコインや装身
具が陳列され、ここでも「断食中の窮屈」
の像を見る。

ミュージアムロードを東へ約5・6km。
右折してジョーリアンを訪れる。道跡は
標高80mの小高い丘の上にある僧院跡で、
各地からの学僧たちが仏典を学んだ。教
師による相違を防ぐため、ストリーパの四
角い基盤の周囲の彫刻を教材としたとい
う。僧院の東の一隅高い所には正方形の
内庭をめぐらす29室の瞑想用の小室が並び、
集会場、台所、食堂はじめ女中室まで備
わっている。付近一帯はすべて僧院跡地

であるが、國家予算の不足から発掘、研
究、保存も未着手の状態である。

続いてシルカップへ行く。標高8・9
mがあり、その柱間にインド・ギリシャ・
イランの三文化の融合を物語る「波頭の
舞」がある。キリストが復活後この地で生涯を閉じたと伝える場所に
大きな樹があり、毎年命日には信者がそ
の下に集い、ミサを行う。このの
道跡の発掘も続続中である。

日没近くイスラマバードのホテルに着

を渡してその旨を先方に伝える。娘のほ
うで男を拒むことはめったらない。

婚約が成立すると男側は娘の一族への
贈物を數えるため、親族一同総出で金棒
ぎに努める。イスラムの嫁とりに莫大な
金が必要なのは周のいかんを問わない。
最近ではそれが必要でない外国人との結
婚を希望する若者が増えているとか。た
だし回教徒は異教徒との婚姻は正式には
宗教的に許可されない。

結婚式の日時が決まるとき、新郎は双
方一週間前から屋内に閉じこもり、休養
につとめ、素肌に香油を擦り込み、身仕
度を万全に整えて婿の日を待つ。結婚
式は結婚シーズンは段々と終えた頃だが、
新郎仕事の始まる頃もある。

ガイドの話はここで切れて、結婚式當
日の様子、さらには初夜のことなど
は聞くことができなかつた。

カーストに関する結婚の話をもう一つ。
ある國の王子が嫁させし娘に出た。
幾日も荒野を過ぎ、たどり着いた村で娘
に会つた。娘は絶世の美女で、たおやか
で、優しい心の持る主だったので、王子
はたちまち恋の虜になり、さっそく彼女
の両親に結婚を申し込み、承諾を得た。



(次頁へつづく)

1等三角点峰（5000メートル以上） 548座完登の記録（第10回）

トカラ列島・奄美大島の山を登る

坂井久光（れつとうあさみおおしま）

昭和59年の秋、10月5日の夜行列車で、信州の真山（→928m・1等三角点）に登り、深田吉名山の霧ヶ峰を観光したのち、翌7日は関東の名峰・赤城山（1174m）と桜名山（1159m）を登り、8日は城跡山（→1035m）と並平山（876m）を相次いで登頂した。

城跡山には新設の石碑があり、旧い様な石が傍らに積みわっていた。このことを会員の池沢氏に話したところ彼はそれを持ち帰って自分の庭に置いたとか。9日は民宿で一泊してから百名山の谷川岳（→983m）へ登った。翌10日、日光から男体山（→1456m）へ登頂した。

「等三角点研究会」の秋の例会は黒

て帰京した。

11月23日に水戸の吾国山（578m）へ登つてみると神社があった。村人が数人いたが、京都から来たと知りてびっくりして「なぜこんな山へ」と云う。「1等三角点があり、全国で990山しかない（當時）山なのです」と説明すると、「この山にこんなものがあるとは知らなかつた」と驚いていた。その日は高鉢山（→924m）へも登つたが、日が暮れて山頂付近は暗闇になっていた。

翌24日、八重山（→1023m）へ。この山も信州の山で山頂に神社があった。下山後、久慈男体山（→855m）へ登つたが、岩山で険しく山頂に登つたら日が暮れた。月明りやランプで下山した。ふもとの「湯の浜温泉」は満喫を泊まれず、やっと覗むく旅館で一泊された。

25日、羽曾岳山（→1442m）の山腹で知り合った新興宗教団・渡辺氏は慶大医学部卒のインテリで、北関東の山々、特に那須の男体山は名額・高根山を登っているとか。また温泉も発見して発録していると云つた。「なぜこの山へ登りに来たのか」と訊かれ、わけを語るとびっくりしていた。車で林道終点の登山口まで行

程（→938m）で10月28日に予定されていたが、その前日に大菩薩嶺（→905m）に登つた。黒岳は会員一同と登り、船越は故米田氏のお世話になった。11月9日には新潟の新潟空港（→652m）へ入谷氏と登頂した。五箇マツが多く生長はしてから歩いていた。そして新潟大学の鈴木氏の好意で佐渡島の豊原山（→364m）を10日、金北山（→1172m）と等三角点を11日に登つた。12日は今まで登路のなかで山毛櫟・平山（→947m）へ登つた。鈴木氏のお世話で大学油習林の林道終点近くまでバスで送つてもらつた。東京から田中二郎氏も参加して、ぬかるみの林道をつめ、意外と簡単に登

きい「しょに登つた。山名は「羽は鳥（みどり）一里（一里と教える）」と馬鹿騒の意」と教えてくれた。「近くは山を見て信者と教説を建設せよ」と書くと下山後現場へ案内してから駆まで送つてくれた。近くにある食堂の信者が地図先生になっていて本人は牛中住所不定とか。

その年最後の山行は12月9日、信州の西島尾山（→1398m）で2等三角点だった。

同年12月末、妻との約束もあり、東洋電波株を満六十歳で惜しまれて退職した。これからは向の制約もなく登山三昧に明け暮れると心中方懸念を叫んだ。

昭和59年1月15日、南九州の鹿児島山（→1056m）へ登頂。ここへは13日に「二支会」で四国松山の母子峰（→998m）へ登つたのち、フェリーで大分佐伯港へ渡り、列車で鹿児島市へ行って登つた。次いで井財大（→1195m）に登つたが、岩石は金属性で地下埋没式になっていた。展望は東シナ海を見晴らし雄大だった。翌16日は鹿児島大学畜産系のある八重山（→677m）へ。翌17日は鳥千子岳（→992m）へ登り、就いて牛乳ヶ原（→552m）・東方森ヶ岳を登つた。この山の山

頂に巨大な岩峰があり、立て札に「此の岩は誰がここへ運んだものか」と書かれているが、自然石だとと思ふ。昔こんな大岩を迎び上げる技術があったとはおえらない。

同年2月2日、鹿児島の冠山（→616m・2等三角点）に登り、次いでフェリーで薩摩に渡り、尾岳（→604m）に登頂した。いたたん鹿児島に戻り、十島丸に乗船してカラ列島の中之島へ渡り、御岳（→974m）に登つた。この山は活火山で今なお噴煙を上げ、噴火口を望む最高点に新設された標石は、国土地理院の刻であるものだ。そして奄美大島へ渡り、最高峰の御岳山（→694m）を2月10日に登つた。これらの島々は嘗て、ゴム子（ゴムの木）やバナナ、ピロウジなどまた野生アサガオや野草も咲いており、中之島では熱帶の温泉が何ヶ所もあり、野生のヤギやトカラ馬も生息している。山麓は常緑樹林で、竹林が生長している。太くて長いので群生原は通路困難である。

3月21日の夜行列車で福岡へ向かい、22日は二つの山（→735m・23日）に乾見山（→815m）・東方森ヶ岳を登つた。この山の山



八重山1等三角点

新ハイキング選書

[第6巻] 花の山を行く 松本雪枝著

その花の山、山の花をたずねてのじるじとしながら歩く旅。
 ●上巻本・口550円・定価1,000円(税込)
 ★三刷発売中!

[第8巻] 旅がらすの山 畠田弘平著

北日本山岳の山、山の花をたずねてのじるじとしながら歩く旅。
 ●上巻本・口550円・定価1,000円(税込)
 ★三刷発売中!

[第11巻] 甲斐の山 山 大石真人著

北日本山岳の山、山の花をたずねてのじるじとしながら歩く旅。
 ●上巻本・口550円・定価1,000円(税込)
 ★好評発売中!

[第12巻] 東海自然歩道を歩く 後藤典一編著

北日本山岳の山、山の花をたずねてのじるじとしながら歩く旅。
 ●上巻本・口550円・定価1,000円(税込)
 ★改訂二版新発売!

[第13巻] 甲斐の妻の山 畠田弘平著

北日本山岳の山、山の花をたずねてのじるじとしながら歩く旅。
 ●上巻本・口550円・定価1,000円(税込)

[第14巻] 百歳までの山登り 畠田弘平著

北日本山岳の山、山の花をたずねてのじるじとしながら歩く旅。
 ●上巻本・口550円・定価1,000円(税込)

[第15・16巻] 日本300名山ガイド 東日本編

日本300名山ガイド 東日本編
 ●上巻本・口550円・定価1,632円(税込)
 ★三刷発売中!

[第9巻] 一等三角点の名山100

日本300名山ガイド 東日本編
 ●上巻本・口550円・定価1,632円(税込)
 ★三刷発売中!

[第10巻] 新ハイキング選書

日本300名山ガイド 東日本編
 ●上巻本・口550円・定価1,632円(税込)
 ★好評発売中!

[第11巻] 新ハイキング選書

日本300名山ガイド 東日本編
 ●上巻本・口550円・定価1,632円(税込)
 ★好評発売中!

「新ハイキング選書」と鉄山(てつざん)に登った。鉄山には池があり金魚の原種・黒色の鉄魚(新の変種)が棲んでいた。

その後、25日に手向山(てむこうざん)、27日に女神山(めいじんざん)に登った。女神山とはめずらしい山名で、その由来は、昔崇峻帝の后小手姫が米うなぎを貢めた。製糸・織錦の技術を村民に教えた。村人は姫を女神と称え、今なお恩を忘れないで山名に名を残し謝意の念を持ち続けているとか。美しい話である。翌28日、越山(おとこさん)に登り、次いで日山(ひのやま)684mに登った。日山は3等三角点であつたが、山麓にはフクジユゾウの群落があり、美しい花を一面に咲かせ春を譜えていた。

翌29日、大龍根山(たいりゆうねんざん)に登頂。最高点は展望広大で、残雪もかなりあった。翌30日に登った蓬田山は信仰の対象の山頂にお社があった。翌31日は栄藏宿(えいざくしゆ)に登った。東京から来た新ハイの命子さん(女性)とバスでいっしょになり、山麓まで来て登ったが、残雪が多く、特に山頂付近はしづか以上もあってズック靴の彼女は困ってしまった。ビ

翌30日に登った蓬田山は信仰の対象の山頂にお社があった。翌31日は栄藏宿(えいざくしゆ)に登った。東京から来た新ハイの命子さん(女性)とバスでいっしょになり、山麓まで来て登ったが、残雪が多く、特に山頂付近はしづか以上もあってズック靴の彼女は困ってしまった。ビ

その夜は温泉「オホ」で「第一三角点研究会」の有志一同が同宿した。長岡市民ハイキングクラブのリーダーの矢尾板二郎氏が講師だったのをあいさつに行くと、あすは浅草岳に登ることと、話しあっているうちに入会の申し込みをされ、新潟県では藤島玄さんについて二人目の会員になった。

翌9日、一行は残雪が多い浅草岳の登路をシラネアオイやカタクリを見ながら登った。山頂一帯は西原で眼下に田子倉

ダムが、西や北には上信越の山々が、守門岳や鬼ヶ岳(きがだけ)を見えた。往路を下山後、末廣さんが割引版「193-10」を案内してくださると言われ、野末さんと三人で列車で六日町へ出て、ハイヤーで清水範間だつたことから命名された由来を知った。続いて翌10日は摩耶山(まやさん)に登った。好天に恵まれ道端にヒメシャガが美しく咲いていた。6日は親切地ややぶをくぐって出で峰(しゆうめい)に登ったが、ここも山頂近くまで林道が付いていてがつかりした。8日に守門岳(しもらねだけ)へ登った。残雪があり、カタクリ・ヒメシャガ・シラネアオイが美しく咲いていた。

その夜は温泉「オホ」で「第二三角点研究会」の有志一同が同宿した。長岡市民ハイキングクラブのリーダーの矢尾板二郎氏が講師だったのをあいさつに行くと、あすは浅草岳に登ることと、話しあっているうちに入会の申し込みをされ、新潟県では藤島玄さんについて二人目の会員になった。

翌9日、一行は残雪が多い浅草岳の登路をシラネアオイやカタクリを見ながら登った。夕方下山し、タクシーで湯沢駅へ出て、二人と別れて温泉旅館で汗を流した。

翌10日、新幹線で上野駅へ戻り、東京の友人たまと交歓してから、その日の夜行で久しぶりに我が家に帰った。

(次号へつづく)

●掲載のご注文は
発行所 新ハイキング社
東京都北区滝野川7-6-13
電話(03)3915-6110

●掲載のご注文は
発行所 新ハイキング社
東京都北区滝野川7-6-13
電話(03)3915-6110

春日若宮おんまつりを訪ねて

松永惠一

おんまつり
部走も半ばを過ぎ、何かと氣せわしく
感じられる頃、春日大社の横社・若宮神
社の「おんまつり」（國の重要無形民俗文
化財）が華やかに繰り広げられる。

藤原氏の氏神として崇えた春日大社は
長保五年（1193年）に主祭神天兒屋根命
の御子天神宇摩根命を若宮にお祭りし
た。おんまつりは保延元年（1135年）
創設と黒病とか云がったとき、圓吉藤
原忠道が當時の芸能人を集めて祭りを
営んだことに始まるとい伝えられる。

おんまつりは12月15日の大宿所祭から
始まる。大宿所は餅飯殿町にあり、こ
こに大祭当日の衣装や進物の神蹟を飾
る。大和一円から寄進されたお供えは、
若宮様が御旅所に入られると、松明に
照られた御旅所前で、騒然が始まる。
轟音のする境内で巫女が華やかに神楽
を舞う。

午後零時半、豪華絢爛な時代絵巻「お
渡り式」の行列が御旅所前を出発する。見
習音楽隊やバントンワラーに続いて、先
頭は藤の造花を冠に差した黒の東装姿の
「日の使い」、因白忠通の代理者を意味す
る。圓流傘を差しかけられた巫女の一团、
芸能各座が続く。浮衣姿の細男一団。能
樂の一団。田楽座は鮮やかな錦の装束に
緋唇笠をかぶる。牡丹の造花を背負い頭
に童のつくり物をいたいた馬長兒。赤と
緑の錦地の綿襷装束に身を固めた
競馬の騎手。流鏑馬の稚見。大名家中が
奉納した引き馬の名残の綿襷馬。長さ
5尺もある野太刀や槍。大和士の一団。
最後を飾る江戸時代の大名行列と続く。
藤原時代から江戸時代までの歴史と風俗
の大絵巻は儀に100を超える。

興福寺の南大門跡では、僧兵たちに敬
意を表して挨拶をする儀式「南大門交
名の儀」が行われる。

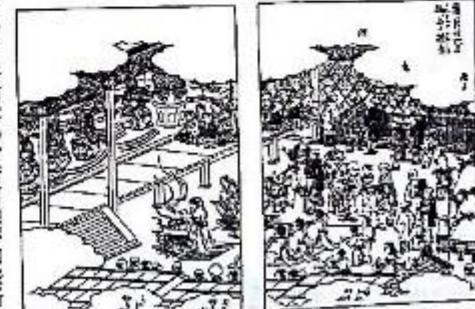
春日大社の一つの鳥居をくぐった右手に
あるのが、鎌倉時代の『春日攝明驗記』

にも出てくる「影向の松」。その昔、興
福寺の僧教山がこの松の下で修行してい
る時、春日大明神が老翁の姿になって現
れ、万感樂を舞ったという伝承がある。
能舞台の背景に描かれている松はこれを
写したと伝えられる。田楽や東遊など
の「松の下の式」が行われる。田楽は豈
年を祝う田遊びが芸能となつたもの。鼓
笛を伴奏にして踊る中門口。高足といっ
て高い下駄をはいて踊つたれば、錦玉といっ
て玉を使つた曲芸を見せたりする。

全ての行列が御旅所に到着してしばらく
くすると「御旅所祭」が始まる。おんま
つりは因白忠通が悪病、飢饉の退散、五
穀豐饒を祈つて始めたため、お供
えには米・麦・小豆・玉蜀黍が美しく盛
り付ける。神事が終わると夜がふけ
るまで籠燈明の明かりのもと國の重要無
形文化財に指定された古式ゆかしい伝統
芸能が奉納される。神楽・田楽・細男・
獅子舞・東遊・舞薬。細男はおんまつりで
ないと見られない日本で「番古」といわ
れる舞。真っ白な婆衆に真っ白な覆面
をつけ、太鼓に合わせて前進したり後退
したりするだけの極度に単純化された踊りは、

12月17日前客時、若宮様が御旅所へ
移られる「遷幸の儀」が始まる。全ての
明かりが消され、闇の闇の中から雅樂の
音とともに「オー」という声が聞こえて
くる。大松明が地面に引きずられながら
進んでくる。すさまじい火花がお散りに
なる道を消める。若宮様は白羽二重の箱
に閉まれ、大勢の白衣の神官とともに
ゆっくりと御旅所に向かわれる。これを
奈良の人たちは「むかえまし」と呼ぶ。

おんまつりかけどり『大和名所図絵』



白装束が闇に浮かび松明の火に映え、と
ても神秘的。海の底に住む者を呼び寄せ
る舞というが、いかにも吸い込まれそう
な魅力を覚える。「八幡忠通訓」による
と神功皇后三韓征伐の折、住吉大神が完
成に常陸國の海底に住む安慶國良を還ん
だところ、國良は頭が見苦しく召しに応
じなかつたので、國良の奸む神楽を奏す
るが、神楽の音に誘われて淨衣の袖で剝
き、頭に鼓をかけて舞つたという。
國良の仲介で龍神から千珠潤珠の宝珠を
得、皇后は三種を征伐することができた
という。安慶國良は筑前では志賀明神、
常陸では鹿島大明神、大和では春日大明
神だと記している。

舞薬は朝鮮三島や渤海に由来のある綠
色系統の衣装をまとつて舞と、中國や東
南アジアに由来する赤色系統の衣装が鮮
やかな左舞とがある。『後王・國良のよ
うな一人舞・納蘇利・青海波などの二人
舞・太平樂・万感樂などの四人舞、春
嶺舞・新島舞などの六人舞などが次々に
舞い続けられる。古い芸能の数々が深夜
まで奉納される。午後11時、再び燈火が
消され若宮様を本殿にお送りする。これ
を奈良の人たちは「おくりまし」と言う。



左手に万葉植物園がある。池を中心として、月葉集に詠まれた植物を主体に三百種余りが植えられていて、一つ一つの植物に万葉歌と説明の書かれた板が添えられている。園内の池の浮舞台では、毎年春の5月5日と秋の10月3日に、南都祭の奉賀入による管弦と舞が演じられ、天平の昔をしのはせる。

参道の両側には大小さまざまな形をした石灯籠が重なるようにびっしりと並ぶ。その数を全部数えると長者になれるといふくらいで、参道や本社と若宮を結ぶ御門道に約千八百基ある。2月の節分祭と

月葉集に詠まれた植物を主体に三百種余りが植えられていて、一つ一つの植物に万葉歌と説明の書かれた板が添えられている。園内の池の浮舞台では、毎年春の5月17日の午後は奈良市内の役所や銀行・学校は事実上の休みとなってしまう。

「まつり早いはおんまり」と語られ、おんまりが終わってから漸く「おし詰まりましたな」と年の頃の挨拶が交わされる。

8月の中、元夜神祭に、これらの石灯籠と本殿回廊の釣灯籠すべてに火がともる。万燈籠と呼ばれる行事で、薄暗闇のなかに揺らめくほの暗い光は、春日の神のもとへと続き開拓の世界を現出する。

素木造漆皮葺の建物は中金(二の鳥居)をくぐる。北側の建物が宝物殿。春日大社と若宮神社に伝わる藤原氏寄進の工芸品・太刀・神宝が展示されている。入り口に二基の石灯籠が置かれている。柱木型灯籠は藤原忠道が奉納したものと伝え、八角形円筒等の美しい灯籠で平安時代の様式をよく伝える。圓筒型灯籠は角型の灯籠で木製椅子の火袋が付箇である。竿の部分に「元亨三年(1323)十一月有弘敬白」の刻銘がある。

二の鳥居から石段を上がり先へ進むと左手に参列殿がある。春日祭の時、勅使がますここに入って準備を整える。朱色に彩られた目にも鮮やかな楼門・南門を入れると正面にびっしりと吊るされた千基の釣灯籠が何よりも印象的だ。朱と鮮やかな青色の回廊に閉まれて、素木造の軒樋・舞殿・白合殿が見事な調和を見せている。それら建物の向こう、中門の奥が本殿で、神社建築の代表的様式とし



春日若宮おんまつり『大和名所図絵』

JR奈良駅から奈良でもっとも張やかな三条通りを東に向かう。近鉄奈良駅からは東向の商店街を通り三条通りに出る。左に興福寺の五重塔、右に猿沢池のさざ波を見るとなだらかな坂となる。右は俗に十三道と呼ばれる大御堂で、三作という稚児が鹿をあやまって殺し、石子詰の刷に処せられた伝説の地として知られる。

坂を登りきった所、車の往来のはげしい国道を渡り、春日大社の一の鳥居をくぐる。三条通りは春日参道と変わり、二の鳥居まではもっと春日野らしい風情のある所。

一の鳥居の右手、「影向の松」。この松の木の下で田楽や東遊などが演じられる。左手の彌足造り石張りの堂々たる政風建築と校倉屋の建物が、奈良国立博物館。天平文化発祥の地にふさわしい仏教考古学の遺品、仏教美術、仏教工芸の優れた館蔵品の数々が観覧できる。奈良公園の秋を彩る正倉院展も開催される。あたりは宝慈院波瀬精十文字鏡を生んだ興福寺の塔頭宝慈院があつた地。

興福寺の春日東塔跡や春日西塔跡が残る。参道の左手の芝地になつた所、東北隅

に白壁の細長い縦のような建物がある。この芝地が春日若宮おんまつりの斎場。御旅所。すぐ東側にあるのが旧奈良県物産陳列所。宇治の平等院鳳凰堂を模して作られたという中央玄関のある建物から左右に建物があり、その先に櫻のようものが設けられている。花頭窓のよう窓枠に白壁が映え、公園の緑と調和して美に美しい。

東大寺南大門から下ってきた道と交差する四辻のすぐ右手の小さな池に「雪消澤古墳」と記された碑がたたずむ。

春くれば雪消の沢に袖たれて
まだらわかき若葉をそつむ
(醍醐院「園雅集」卷一)

右手一面の広大な芝生が飛火野。「続日本紀」和銅五年(712)の条に記された「大倭の國春日烽」の置かれた地。鹿があちこちに遊んでいる。参道の右、第三殿は松岡の天児屋根命。第四殿が比売神である。春日大社は藤原氏の庄神として崇えた神社。伊勢の神宮・石清水八幡宮と並び三社と称せられ発展した。

南門前から東南に向かう石灯籠の道は御門道と呼ばれ春日若宮神社へと続く。祭神は天児屋根命の子天御雲根命。保延元年(1133)創建。本殿・拜舍・御殿・神樂殿・手水屋と御殿造りの趣を伝える優美な建物が御蓋山の緑を背景に並んでいる。この神社の祭をおんまつりと呼ぶ。

て知られる春日道の典雅な神殿が四棟並んでいる。第一殿が鹿島から勧進した武甕槌命、第二殿は香取の經津主命、第三殿は松岡の天児屋根命、第四殿が比売神である。春日大社は藤原氏の庄神として崇えた神社。伊勢の神宮・石清水八幡宮と並び三社と称せられ発展した。

南門前から東南に向かう石灯籠の道は御門道と呼ばれ春日若宮神社へと続く。祭神は天児屋根命の子天御雲根命。保延元年(1133)創建。本殿・拜舍・御殿・神樂殿・手水屋と御殿造りの趣を伝える優美な建物が御蓋山の緑を背景に並んでいる。この神社の祭をおんまつりと呼ぶ。

JR奈良駅→三条通り→猿沢池→一の鳥居→影向の松→御旅所→二の鳥居→春日大社→春日若宮神社→近鉄奈良駅
八費用

JR奈良駅→三条通り→猿沢池→一の鳥居→影向の松→御旅所→二の鳥居→春日大社→春日若宮神社→近鉄奈良駅
八費用

JR奈良駅→JR奈良駅
近鉄奈良駅→近鉄奈良駅
八地圖(2万5千里奈良)
八間い合わせ先
春日大社 0742 (22) 7785

玄人向きの山

大甲山

中級コース (★★)

慶佐次 盛一



で、秋山の良さを味わいながら歩けるだろう。ササの生え込るのきついところもあるが、宮林署の赤いテープが続き、ミズナラやブナの木の間から三室山や水ノ山の姿も望める。

大甲山が近づくと、稜線は大きくなったり輪の植林帯の登りになる。はつきりした道は消えてなくなるが、高みをめざしてどこでちぢれる。どうしたわけか鹿のステムが無数にある。中には鹿が10頭でも使えない、とてもなく大きなヌタ場もある。

高みに登りつめると北向きの3等三角点(1035.3m)があった。だれが出

たのが、大甲山と書いた古い標識がある。もうほんとうに読めなかった。

西南が開け、重畳する播磨の山並みの中、西に日名倉山から船越山へ続く長大な稜線、南に黒尾山、曉晴山のはるかなたには明神山の可愛らしいピーカも見える。ふり返ると、わずかながら植松山の青いササの頂の一角も見えるではないか。いずれも私にとっては懐かしい山々である。

静かな山頂でゆっくりと憩い、若い仲間のすすめでヒルガタワ(117.1m)への稜線を一部たどってみた。二次林だと思われるが、ブナやミズナラの巨木が残る雰囲気のいい稜線だった。

被林帯を経て、くだりの目標にした四八六番の石標まで元の道に戻った。石標の頭の北側への矢印に従い、石標から左側が伐採地になり、鹿除けのネット越アが残り、その下には礫石が埋まっていた。そのテープと礫石を振りにくだるのだが、何しろ急落に続く急落だからよく尻もちをついた。ほぼ植林帯で途中から左側が伐採地になり、鹿除けのネット越しにヒルガタワのピーカが見え、さらに高度を下げる右側に一山も見えた。

けたのか、大甲山と書いた古い標識があ

たが、もうほんとうに読めなかった。

西の山並みが見えて少し進むと、四八六の番号が刻まれた宮林署の大きな石碑があった。急落する北の斜面をうかがうと、切り開きに赤いテープが見られ、くだりはこの切りの等高線ピーカで、猫の顔くらいの平地があつた。

すぐ先の左に踏み跡があり、まずは主稜線の694・0mの4等三角点へ向けて登り始める。最初は植林のなかの踏み跡をたどる。少し傾斜が増し始めると砂鉄のユド跡と思える溝を越え、支柱根にコースをとる。

登るにつれ傾斜は増し、踏み跡もなく東の展望が開け、などらかな東山や曉晴山などが見え、場所を変えると北の一小道が絞く。このあたり左植林、右自然林である。少し急登をこなしたところでアンテナは消え、自然林のなかにコルク質のアスマキなどが日立つ。

相変わらず小さな露岩は続き、わりと大きな露出の場所につく。若い仲間はこが行者山ではないかと呟く。820番の等高線ピーカで、猫の顔くらいの平地があつた。

大甲山の三角点(3等)



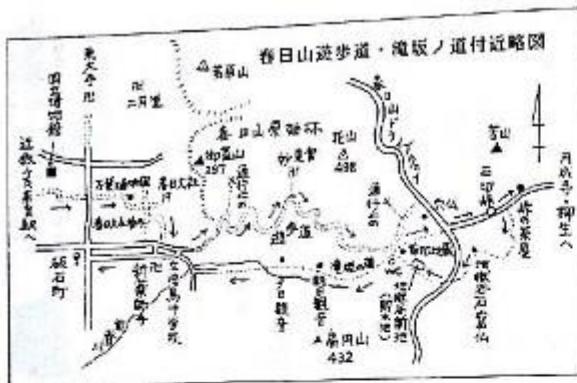
▲コースタイム▼
山崎インター(車35分)野尻(1時間)
4等三角点(35分)行者山(1時間)大
甲山(25分)四八六標石(50分)林道
(20分)野尻
△地図図版(2万5千)音水湖

春日山遊歩道を歩く

春日山原始林

初級コース (★)

吉村 迪



ついに遊歩道と滝坂の道が接する。そこが「首切地蔵」の立つ所で、照葉樹林帯も終わる。

大きな石仏「首切地蔵」の前を行く道は、石窟仏のある埋藏谷に向かうもの。

「地獄谷石窟仏」は帰路に見ること

にし、ここでは先ず石切跡をめざそう。左方へカーブして行く遊歩道とも分かれ、東進するよ、春日奥山ドライブウェイに行き当たる。これを突っ切り、車一台通れる程の道を行くとやがて石切跡の切り通し、先には茶店（此の茶屋）がある。

この「此の茶屋」を折り返し点としよう。「地獄谷石窟仏」に向かうには、石切跡の手前を南に入る。か細い山路となり、ようやく気分が落ち着く。周りは雜木林である。少々とりとめのない樹相であるが、秋色が感じられて好ましい。参考までに出現の樹種を記しておく。クロツカ・カラスナン・ショウ・ヤマツワルシ・ウリハダカエデ・コシアブラ・タカノツメ・ナツバゼ・ヤブミラサキ・アカガシ・アラカン・ウラジロガシ・コジイ・ヒサカギ・ソヨゴ・ナワシリログミ（ただし高さ4~5mの木）。

尾根の道はまもなく狭い谷に沿うようになる。次いで山腹をうねうねと行く。複雑な地形に、いたいどこを歩いているのだろうと思う頃、ふっと石窟仏の前に出る。凝灰岩を穿った窟内に数体の石

奈良の新業寺付近から山間部に入り、峰を超えて初生に至る道（柳生街道）は、かなりボビュラーなハイキングコースで、よくに歴史派ハイカーに喜ばれる。ガイドブックにもよく振り上げられている。

このコースの一部は春日山原始林に接している。極端の照葉樹林は本州では希

有な存在だが、春日山原始林はこれの貴重な一例だと言つてよい。通常のコースに変更を加え、換骨導輪、森林派向きの一回コースを仕立てあげてみよう。

近鉄奈良駅から春日大社本殿行きのバスに乗り、終点まで行く。ここから先ず境内を抜けて行くのだが、場合によつては、近鉄奈良駅・春日大社境内間（2分）

を歩く。その場合、圓福寺五重塔・国立博物館前・万葉植物園前を通って行くとよい。

さて、境内から新業寺付近の東道に出たら、東に行く。飛鳥中学校の所で柳生街道（滝坂の道）と分かれ、春日山遊歩道へと入って行く。最初には「滝坂の道」を使うつもりだから、分歧点付近の様子を覚えておこう。道は確かに幅広い。この道は当初、ドライブウェイとして開かれたものだからである。現在は車両通行止めとなっている。地形圖上で破線路が左に分かれる地点に着く。破線路（山道）入り口に「立ち入り禁止」の注意書きがある。

ここで承知しておいていただきたいことが一つ。それは、御在山（297.8m）・花山（498.6m）一帯が、奈良市により林内立ち入り禁止区域にされているということ。つまり遊歩道以外は歩けない。

従つて、御在山の鞍部を越えて若草山に

行くことはできないし、花山の頂上を踏むこともできない。残念だが、市民もこの禁足を守つていることだし、私たちもこれに従わざるを得ない。

すでに薄暗い森のなかに入り込んでいる。蛇行する遊歩道を進む。ロジ多様な樹木が枯木ムクロジ見事な大怪木に出合うが、スギ・ツクバネガシなどである。日月といえども、一帯はやや黒ずんだ緑におわれている。

しかし、所どころに紅葉したイロハモミ

ダと落葉のムクロジが見られ、そこはま

るで天窓が開いたように明るくなつてい

る。

出現種を列記しておこう。晩綠樹では

モミ・スギ・イチイガシ・ツクバネガシ・

アラカシ・ウラジロガシ・カゴノキ・イ

ヌカシ・サカキ・ナワシログミ・アセビ・

イズセンニヨウ、それらに混交する落葉

広葉樹はイヌシデ・ケヤキ・ヤマザクラ・

イロハモミジ・ムクロジ・ケンボナシ・

ナツヅク・ヤブムラサキ（山道分岐）も見

宮人口日題）。なお、春日で御聖祝され

ている木は大キだが、ナセモこの山城に

多くても最古のものと云われている（利

作年代・藤原氏代、異説もある）。

石窟を後にすると、樹林のなかの歩みと古仏群観で、何となく心に印象が広がります。中尊の如来像は春日奥山石仏群のうちでも最も古いものと云われている（制作年代・藤原氏代、異説もある）。

石窟を後にすると、樹林のなかの歩みと古仏群観で、何となく心に印象が広がります。中尊の如来像は春日奥山石仏群のうちでも最も古いものと云われている（制作年代・藤原氏代、異説もある）。



△コーススタイル
近鉄奈良駅（バス10分）春日大社（15分）
首切地蔵（公分）石切跡（35分）妙見宮下（35分）
(15分) 首切地蔵（35分）飛鳥中学校前
(15分) 破石町バス停（バス10分）近鉄奈良駅
△奈良駅
△地形図￥2万5千＝奈良・柳生

特選コースガイド図

湖北

湖北の深山

おおみかけやま
大御影山

中級コース(★★)

尾家 建生



大御影山付近略図
大御影山頂に至るまでの地図。主な登山ルートと周辺の山々が示されています。

きがある。再び古道に入るとブナが目立つ始め、深山の趣が増してくるが、道は不思議にもますます快適となり、やがて大御影山頂に到着する。山名に似合わず山頂はこじんまりとし、展望はない。帰りは来たコースを戻る。同じ道なので单调さはあるが、そのぶんのんびりと山を楽しむことができる。7月にはオオカメノキの赤い実が印象的だった。

古道はさらに福井側へ続いている。ブナ林は滋賀側のそれを圧倒している。

福井側の下山路と帰りの交通をしっかりと計画しておけば、すばらしい若狭越の山行となるであろう。ただ、福井側には美浜駅発からの送電線があり、その巡回路が何本もあるので注意を要する。また、乗越の林道から河内谷へおりてしまふと、

大御影山は五万分の一地形図「熊川」にその山名こそないが、箱館山の北部、滋賀県と福井県の県境に泰然として存在する950m+の峰である。

今津町の酒波から北にのびる尾根に沿って近江と若狭を結ぶ「近江坂」がある。古くからの着伏で、現在でもしっかりとした道が尾根伝いに延々と続いている。山城は広葉樹の自然林におおわれ、東西に谷をへだてて大谷山と三重岳の山並みを望み、鹿が走り小鳥の鳴き声は絶えることなく、まさに深山の趣をかもし出している。

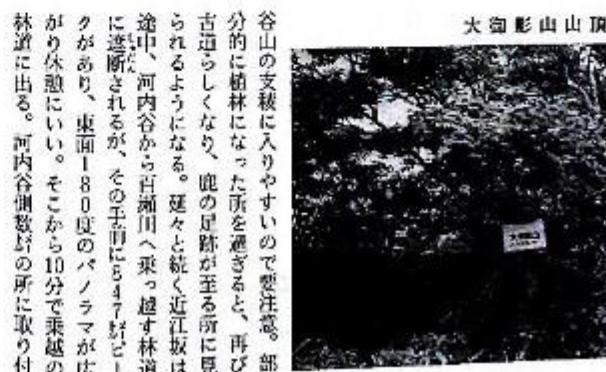
湖北の知られる山、大御影山はこの近江坂のほぼ中央に位置し、今までア

プロトチが長かったが、今年4月にJR近江今津駅からピラデスト今津へ、11月までの土・日曜のみバスが運行され始めた。日帰りが容易になった。

近江今津駅9時10分発のピラデスト行

きのバスに乗車、30分で終点のピラデストに着く。オートキャンプ場に向かい、15・16番コットの手前を左の砂利道に入る。右手に杉林が見え、どこから入ってもいいが、「ふしきの道」の標柱を入り山坂まで行くと「近江坂」古道の取り付けがある。すぐに小さな流れがあるが水場はこれが最後。北方向、尾根をめざして登りが続く。登山口付近で右にそれもっともらしい古道があるが、東斜面に向かって谷におりてしまうので、正面のテープに従い直進する。30分も登ると尾根歩きになる。道は明瞭で、古道たるにふわしい。若狭越の多くは平安朝後期に実用化されたという。とすれば千年の間人々が往來したことになる。まるで先祖の道をたどって行くような気分になる。

樹林が裸の時季だと猿猴からの見晴らしもよく、東にゆるやかな视野を広げた大谷山が眺望できる。左手に奥長瀬湖を望む地点では道は屈曲し、積雪期だと泥



大御影山山頂

KOBEの豊山専門店

手作り『スナックザック』
心ときめき、背負いやすいザックです。

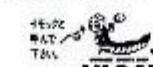


●ウォーキングスナックタイプ

ベンチレーションサポーツパットにより背中は常に快適。バックパネル部がワンタッチで取りはずし可能。新規マグネットを装備、アルミフレーム内蔵。
日帰りから一泊山行に最適、かつ良さで定評のアタックタイプです。

●カラー: ジュード×レッド、ジュード×ブルー
●サイズ: 34L
●容量: 28L
●素材: エスカルリップストップ使用
●価格: ¥13,000

草巻、グリセード、岩の
ぼり、紅葉巻から岩巻へ、
みんなで登ろう、晩秋の
山、応援します。
あなたの山登り。



神戸ザック
TEL: 078-921-521-521
FAX: 078-921-521-522

特選「ースガイド④

丹後

羽衣伝説の山

いさなご
磯砂山

初級コース(★)

内田嘉弘

この山へは平成九年七月に當山から登ったことがある。

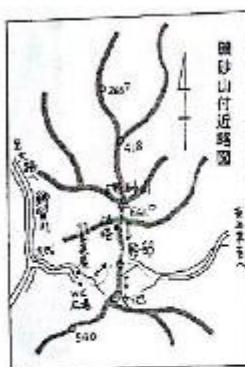
この時は稜線に出でから踏み跡程度の道を身丈ほどナナのなかをかき分けながら登った。山頂からの展望もなく印象の薄い山登りだったが、今回紹介する大成からの道は遊歩道が完備され山頂も展望台ができるてだれでも簡単に登れる山となっている。

大成から鶴留川沿いの舗装された林道を行くと休憩用の羽衣茶屋とトイレのある広場に着く。車はここまで。「登山口まで310m」と車止めの所に道標がある。それに従って左へ廻り込むようアーチされた林道が谷沿いに続いている。タニウツギが咲き、タラの木も見られる。

足元にはスミレが見られ、高瀬が上がることになる。「あと三五〇段」と道標、親切なこと。「南無妙法蓮華經」の法塔のある頂上手前のコブを過ぎ、最後に九四段を登りきると、てんてん広場と称する頂上で展望台があつて、その下に「寺二角点(666.0m)」がある。

天女を浮遊にした石碑には日本最古の羽衣伝説発祥地となる。その裏には「羽衣大女の由来」奈良時代丹後國土記に記された羽衣伝説話は日本最古のものです。

羽衣大女の由来(北島鬼子母神)「元九集」(二三三七年)に、丹後國風土記に曰く、丹後の国比治の山(鬼子母山)の山頂に井あり、その名を真井(安井)という。この井に天女八人降りて来て水を浴みき。範の初奈佐の老夫、天女の衣をかくし児として無理に連れ帰る。天女万病に効く天酒をよくす。十有余年するうち、老夫の家富み榮ゆるも、老夫は、「汝はもともとわが兒にあらず」と家より出う。天女泣く泣く放浪し、竹野の郡船木にたどりて死す。里人天女を祭社に祀る。この豈字賀能発の命(伊勢外宮の豊受大神)なり」とこのように女池の羽衣伝説は日本各地にある羽衣伝説の中でも格調高いものである。



羽衣伝説の石碑にて

▲コースタイム△
羽衣茶屋の駐車場(10分) 登山口(40分)
磯砂山
△地形図▽5万1千分之一

(平成10年5月4日歩く)



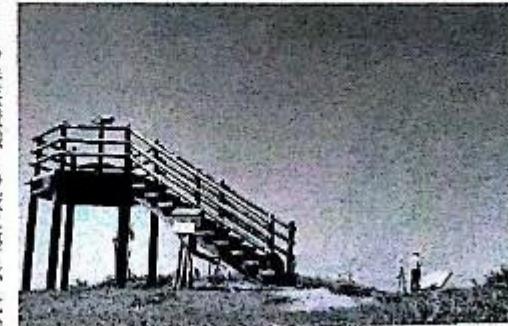
低山登山～本格トレッキングまで、
登山用品のことなら
おまかせ下さい。



△543 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL 06(772)7231

-69-

磯砂山の山頂展望台



-68-

河内平野の展望台

飯盛山

初級コース (★)

柴田 昭彦

JR学研都市線四條畷駅ホームの名所案内には「絵日傘ハイキングコース、東南へ8分」とある。以前からどの道を指すのか気になっていたが、最近になってようやくその意味とコースを知ることができた。

【京阪神近郊ハイキング(100)コース】

(日本交通公社関西支社刊、昭和28年)には、「四條畷絵日傘コース」として、四條畷駅、四條畷神社から白登山道で飯盛山頂に達し、尾根伝いに經寺へ向かい、野崎観音を経て野崎駅まで11キロ・4時間所要の行程を紹介している。

ところが、野崎駅前の「飯盛山ハイキング道案内図」には、絵日傘コースとし

て、野崎観音から辻の新池、飯盛山上を経て急坂の新登山道をくだり、四條畷神社に達する約3・1キロの行程が紹介している。

【広辞苑】には、「絵日傘」とは「絵摸様のある日傘」とある。野崎観音で尋ねたところ、「野崎小唄」(昭和10年)に「絵な日傘」とあるように、大坂商人など裕福な家の娘が野崎参りの屋形船でさしていたのが絵日傘なのだと。絵日傘コースというのは、野崎参りにちなんで大東市が名付けたものだという。下の売店でミニサイズの絵日傘を売っていた。

河内の飯盛山については、本誌38号の松永氏の記事に詳しく述べ、「大阪府の山」「山と渓谷社」をはじめ、「関西ハイキングガイド」(創元社)、「山と渓谷」1995年9月号、「歩く地図」大阪・神戸'96など多数のコースガイドがあるが、大部分は、絵日傘コース(名称は全く出てこないが)を紹介したものである。現在、利用されている2万5千分の1地形図

【生駒山】(昭和32年第2回改測)に記された飯盛山登山道があやしいために、ガイドの地図も誤りが多いのは気になる。せ

【生駒山】(昭和32年第2回改測)に記された飯盛山登山道があやしいために、ガイドの地図も誤りが多いのは気になる。せ

野崎観音境内の秋碑



一般向けのコース地図としては、「河内・飯盛・ウォーキングコース」(大東市文化財保護推進会編集協力)、同市公團線

化城)があり、役に立つ。「ひこいこまつぶ」(生駒山系広域利用促進協議会)、「大阪府農林水産部総務課農業整備室、四百円)には、24コースが紹介されていて、飯盛山付近の2コースを含んでいるが簡略なものである。

飯盛山については、ハイキングの利用頻度が高いにもかかわらず、登路を正確に紹介したガイド記事はごく少ない現状である。飯盛山展望台横にある「飯盛山周辺登山路略図」は、内容が不十分ため訂正されたり、追記書きされたりしている始末である。

今回、飯盛山系における利用可能な山道と、かつて用いられた歴史的な古道とを踏査してみたので、紹介しよう。

【四條畷市史】(昭和49年)と「大東市史」(昭和49年)によれば、飯盛城が三好長慶の本拠となつた永禄二年(1559年)の頃に存在した道は、次の5コース(「つづきの古道」と)だということである。

1 石太戸コース(四條畷神社南側から尾根伝いに史蹟碑に出るもの)
2 渓谷コース(渓谷を下りて、源さ水付近から宇馬場(福公寺)へ出る

道と、桜池から千番敷へ出る道の二つがある)

3 野崎コース(野崎観音から桜池、尻池、南池を経て、山頂に至る。現在、ハイキングコースになっている)

4 北条コース(北条神社から宮川谷を登り、山腹を捲き、尾根伝いに千番敷に至るもので本丸への最短コース。もうひとつはヨボシト若から地獄谷をくだるもので、正平三年(1358)、高師直に従つた佐々木高氏軍が駆けくだり、楠木正行軍を破った古道といふ)

5 前間コース(前間から桜池、馬場を経て、山頂に至る。現在、車道に改修されているが、ゆるやかな道である)

以上の5コース以外にも、飯盛山登山道はたくさんあるが、現在、夏場でも簡単に利用できるコースは次の通りである。

【旧登山道コース】昭和30年代まで、四條畷神社からの飯盛山登山道といえば、このコースを意味していた。神社南方の石段道を上がり、ふだんは閉まっている

商店の上で板橋を渡ってジグザグに登る。山腹をぐる道のため展望抜群で

あり、利用者は多い。新登山道の整備された四和50年代には、路肩が弱くなつた所があって、危険なコースになつたが、今ではよく整備されている。このコースは昭和47年修止測量の2万5千分の1地形図「生駒山」に明瞭に記載されているが、奇妙なことに昭和53年改測以降の地形図にはアタラメの山道が記載されたままになっている。【大東市史】と「日本城郭大系」第十二巻(昭和58年)の飯盛城配置図には、旧登山道が記載されている。

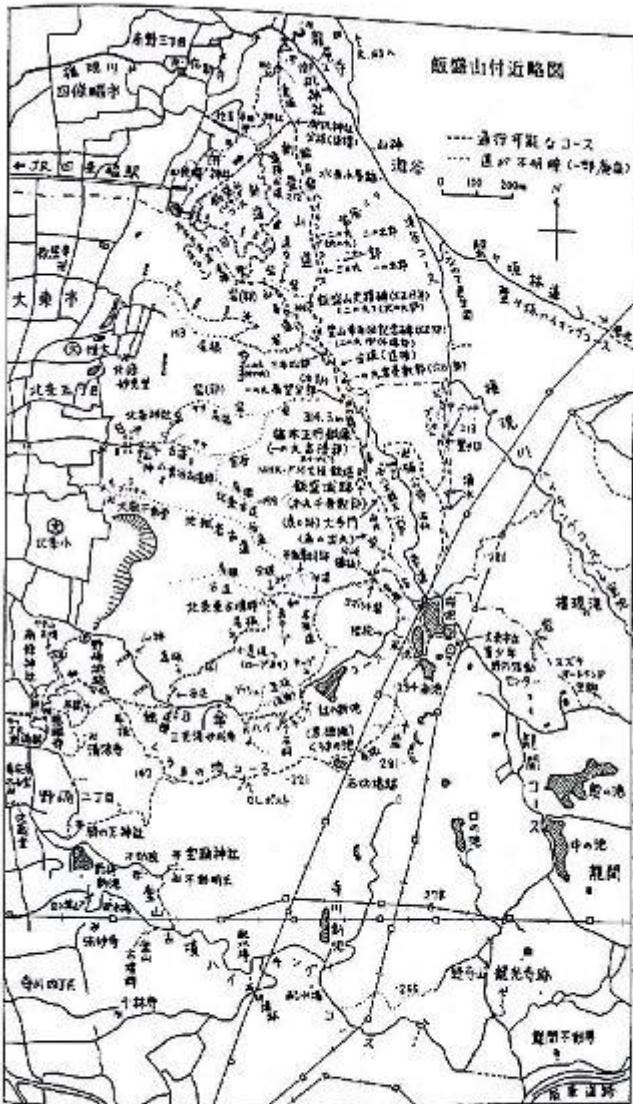
【新登山道コース】昭和50年代に整備されて、飯盛山ハイキングコースとして親しまれているが、城跡地形に影響されて急坂が多く疲れやすいため、あまり評判はよくない。大正期に建てられた史蹟碑や御体塚(三好長慶の靈廟葬地といふ)に立つ登山記念碑(四條畷高校第二代校長木原四郎建立)がある。

【御机神社コース】式内社の御机神社からは、トイレの背後から急登して新登山道に出てるコースと、トイレの手前からゆるやかに捲いて、整備された道に出会うコースがある。出会いの地点に「イイモリヤマ」と記した道標があり、赤テー

ブに従って、急坂を登ると山腹道となり、やがて、旧登山道に出合う。筆者の記憶では、2年前にはこの山腹道は整備されておらず、新道と思われる。

【教原寺コース】田登山道をくだっていくと、立木に大阪府による「火気に対する注意」の表示があり、尾根伝いに明瞭な道をくだっていくと、途中で右へ山腹を捲

く。やがて、谷の左手を高捲きながらくだる。少し草深いところもあるが、道ははつきりしている。教原寺を経て四條坂駅へ出られる。



【くろまの池コース】野崎観音から城跡を経て尾根伝いに急坂を上がり、くろまの池へ出る。池の北側を通り铁塔巡視路を経て、南池の西側に出る。静かな歩きが楽しめる。

【堂山古墳コース】野崎新池の北側から宝鏡神社をめざし、途中で右の山道に入り、舗装道に出会い、經寺山龍光寺跡を経て、龍間コースで桜塚から山頂へ向かう。舗装道が長い。

【北条東古墳コース】山頂から尾根伝いにヨボシト幹の手前の分岐(マイオンズクラブによる看板がある)で西尾根に入れる。途中で分岐があり、左の尾根道は迷いの新池の西側に山出されるが、直進する谷道をとる。すぐ両側が谷となり、再び分岐点に出る。右は古道だが、赤テープに従い左をとる。このあたりが北条東古墳群である。尾根道をくだれば、「山も緑も深い尾根をわざかに突破すると右手に出で急坂となる。雜木林が快い尾根道から左に折れて谷道をくだれば、「山も緑も人も好き」と記した道標のある野崎、飯盛山ハイキングコースの分岐点に出る。

くだりでの利用をおすすめしておく。

モデルコースとして、四條駒ヶ岳社から道標分岐で新道に入り、旧登山道から山頂に出て、北条東古墳コースで野崎観音に至る行程をあげておこう。

なお、本誌40号に、飯盛山の二角点標石についての橋本氏の隨想がある。昭和47年に再建された楠木正行銅像の北側の足下にあり、側面の銘を落とすと「國地院」「角点」の文字が読みとれた。

野崎観音(慈眼寺)の境内には、駿河川高等女学校の今中潤次(本名:保岩則)先生自筆の歌詩(昭和八年作詞の「野崎小唄」)が刻まれた歌碑がある。

野崎観音(慈眼寺)の境内には、駿河川高等女学校の今中潤次(本名:保岩則)先生自筆の歌詞(昭和八年作詞の「野崎小唄」)が刻まれた歌碑がある。
とあり、やはり芭蕉の句碑である。芭蕉音を詠んだものだという(大東市文化財ガイドブック第一回「石の文化財」)。

日原益軒「兩遊紀行」には、元禄二年(1689)2月11日に訪れた飯盛山麓について、次のように記されている(益軒全集卷之三)。「飯盛の妙極、北の麓よりみれば、山の形致を盡たるがことし。故に飯盛山と號す。山の西よりみれば、さやうには見えず」

「南遊紀行」の稿本「南遊紀事」にも当然のことながら、同様の記述があり、「東路記」、「己酉紀行」、「西遊記」(新日本古典文学大系、岩波書店)で手帳に読むことができる。

(平成10年7月26日・8月1・6日歩く)

△コースタイム
JR四條駒ヶ岳(20分) 四條駒ヶ岳(5分)
新道への道標分岐(10分) 旧登山道合合(30分) 飯盛山二角点(10分) ヨボシト幹分岐(30分) 道標分岐(15分) 野崎観音(15分) 野崎駒ヶ岳(15分)
△地形図△2万5千比生駒山

一万比四條駒ヶ岳

(記入例)
(往復ハガキを使用)

山行申込み書
山行名(正確に記入すること)
期日
住所 平
氏名
会員番号 (会員でない方は会員外と記入)
電話番号
生年月日
緊急時の連絡先 TEL (山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄にご自分の住所氏名と「様」を記入してください。

山行計画
(11・12月)

新ハイキングクラブ開催

このページの山行計画には、「会員に限る」と記載してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。電話・FAXでの申込みはお断りします。「一晩泊」のほかに参加名簿代などの他の資料代は貰いたくないことがあります。山行申し込み後参加できなくなったら、現地の悪い方や危険な人にはお断りします。出発点までの旅費に保険料と救援対策費(宿泊料金合計100円/夜行三泊りの場合に500円)を支払っていただきます。

傷害保険約内容は次の通りです。(会員登録者と保険死亡・後遺障害保険金額)

入院保険金 日額

5000円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。(①ピッケル・6本木以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・フカンを持参することを明記した山行 ②スキーや登山用の山行 ③急流・岩・水害登攀などを目的とした山行)

このページの山行計画には、「会員に限る」と記載してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。電話・FAXでの申込みはお断りします。「一晩泊」のほかに参加名簿代などの他の資料代は貰いたくないことがあります。山行申し込み後参加できなくなったら、現地の悪い方や危険な人にはお断りします。出発点までの旅費に保険料と救援対策費(宿泊料金合計100円/夜行三泊りの場合に500円)を支払っていただきます。

傷害保険約内容は次の通りです。(会員登録者と保険死亡・後遺障害保険金額)

入院保険金 日額

5000円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。(①ピッケル・6本木以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・フカンを持参することを明記した山行 ②スキーや登山用の山行 ③急流・岩・水害登攀などを目的とした山行)

霧深きアルプスに鉛錆咲けば
山小鹿は祝祭の鐘鳴らす
6月16日 大河原温泉
木道ゆけばシラカバ光る森道か
ズミは近くに山澗歌しつ
6月20日 南越日野山
雷鳥号疾走し運ぶレクイエム
真鍮の都市と砂漠を越えて
6月28日 六甲石楠花山
都会の支配送り來た森の國に
まほろの花シナダンカ開く
7月15日 立山連峰雄山
天暗く地は青凍る長夜の
明けて暖き感温を歩む
7月22日 六甲最高峰・魚屋道
ロックガーデン攀登り遠く浮く
沖ゆく船よ夏を曳いて来よ
7月26日 敦賀三十三間山
岳人の背に羨異与え風の天使
五色の湖へ迎れに行け
7月30日 紀北雲雀山
燃ゆる頬撫づる雲雀は古道より
印度へつづく南海に消ゆ
(木村太郎)

八月山行報告
2日「やまと地形図の会」例会
日心身ノ会(瀬川) 四寸岩山
案内 16名、24名
6日「峰一番」例会 地蔵峠(木村太郎)

このページの山行計画には、「会員に限る」と記載してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。電話・FAXでの申込みはお断りします。「一晩泊」のほかに参加名簿代などの他の資料代は貰いたくないことがあります。山行申し込み後参加できなくなったら、現地の悪い方や危険な人にはお断りします。出発点までの旅費に保険料と救援対策費(宿泊料金合計100円/夜行三泊りの場合に500円)を支払っていただきます。

このページの山行計画には、「会員に限る」と記載してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。電話・FAXでの申込みはお断りします。「一晩泊」のほかに参加名簿代などの他の資料代は貰いたくないことがあります。山行申し込み後参加できなくなったら、現地の悪い方や危険な人にはお断りします。出発点までの旅費に保険料と救援対策費(宿泊料金合計100円/夜行三泊りの場合に500円)を支払っていただきます。

山行報告
(7・8月)
新ハイキングクラブ開催



室生・鬼岳と鎌岳
7月5日(日) 晴れ
近鉄名張駅・40分(バス)・9・55発
(バス)曾爾橋輪10・40→自転車
戻11・20 鬼岳山頂12・05 戻13・
12・45 豊坂13・15→鍵部13・
40→鍵街13・50→林道15・05→新
木店前15・20(バス)名張駅16・
12(解散)

ムシムシする暑さのなか、兜岳
に着いてみれば先行グレープ15名
がいた。昼食をうつしよかと迷つ
ていると場所を先にけてくれて山登
して行った。同じ中高年で気持ち
のいいグループだった。

「参加者」井崎重郎 竹田英美
高岡伊男 中村義雄 前田政雄
有理清美 大本久子 森 美香子
三浦恵幸 伊藤 真 囲本美子
森 春好 小林 理 稲木美恵子
入江武史 佐賀章一 阪田由美子
今西民子 三井英一 筒井繁子
内本良子 德田博子 大本勝

衣笠山・竜安寺山(一般向き)
期日 12月15日(日) 日帰り
集合 衣笠・立命館大学前10時
コース 竜安寺山・御室八十八ヶ
所→双ヶ丘→JR花園駅
(解散)

費用 約1000円(京都から)
地図 昭文社「京橿北山」
会員 ◎今西光男

申込み 〒610-0121
地図 2万5千(糸糸之)
係員 ◎小山良春
申込み 〒448-10002
刈谷市二里山町一里山59
の3 小山良春まで
多度・養老山系の最高峰です。
山頂からは伊吹山が目の前に見え
ます。*申込みはハガキに集合駅
を明記してください。

雨・雪天中止

京都北山歩き方
期日 12月15日(日) 日帰り
集合 衣笠・立命館大学前10時
コース 竜安寺山・御室八十八ヶ
所→双ヶ丘→JR花園駅
(解散)

費用 交通費各自
地図 2万5千(糸糸之)
係員 ◎小山良春
申込み 〒610-0121
湖東半野のすばらしい眺望を楽し
みながら巡視路を白鹿背山から
明神山へとなり、古墳で昼食をと
る(各自持参)をします(33号・
50・51ページ参照)。雨天中止

申込み 〒610-0121
地図 2万5千(糸糸之)
係員 ◎山本久子
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー・山行
申込み 〒610-0121
湖東半野のすばらしい眺望を楽し
みながら巡視路を白鹿背山から
明神山へとなり、古墳で昼食をと
る(各自持参)をします(33号・
50・51ページ参照)。雨天中止

初冬の雪水・吊り尾根に進ぶ
鈴鹿・高畠山から紅葉岳
(健脚向き)

期日 12月26日(日) 日帰り
集合 JR亀山駅前駅前8時
20分

コース 亀山駅(重) 大森林道・
駕籠車(車) 駕籠車万人
打越・高畠山・鶴千山・
蒲生野といわれる万葉の里から、
眼下に湖東半野と琵琶湖を展望す
る険道の岩山を歩きます。

申込み 〒610-0121
地図 2万5千(糸糸之)
係員 ◎高井亮治・木村吉秀
申込み 〒510-0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー・山行
申込み 〒510-0121
鈴鹿峠から高畠山・鶴千山・紅
葉岳を歩きます。*怪アイゼン・
灯具必携。雨・雪天中止

地図 30分後
交通費各自
岳 明文社「奥奈所・鎌ヶ
岳」
申込み 〒510-0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー・山行
申込み 〒510-0121
駅(解散)

コース 近江八幡駅(電車)・市辺
ホーム9時
駅(解散)

集合 近江八幡駅(電車)・岩
戸山・小畠山・真作山・太
郎坊山・太郎坊宮・太
郎坊駅(電車)・近江八幡
駅(解散)

費用 約35000円(大阪から)
地図 2万5千(糸糸之)
係員 ◎村田哲也・○近江比格夫
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大畔10の10
村田哲也まで
駕籠車(車) 駕籠車万人
打越・高畠山・鶴千山・
蒲生野といわれる万葉の里から、
眼下に湖東半野と琵琶湖を展望す
る険道の岩山を歩きます。

雨・雪天中止



元越谷・左様(鈴鹿を歩く5)
7月5日(日) 晴れ
元越谷林道分歧8・40(車)・元越
谷分歧8・50→大瀬10・00→左側
分歧10・20 在来被説11・50(昼
食)12・30→尾根12・40→上稜線
往復13・30→駿足13・40→仙人谷
源流13・50 元越谷林道14・20→
元越谷分歧15・00(解散)

沢に入ると生き返ったようでの
んびりと水がたわむれる。明るい
花崗岩がほとばしる清流と見
事に調和してすばらしい溪谷美を
見せてくれた。穂綿の涼風が吹き
暑さ知らずの山行になつた。

「参加者」井上久子 豊田真理子
木村好和 森澤元博 森澤淑子
鶴田和江 平龍一 平 幸子
荒井寛子 高橋正人 森 美香子
伊藤豊一 横原 尚 石田真由美
稻垣逸夫 森 駿代 藤木みづみ
○希望幸大 ○鈴鹿英五(計19名)

講習山から八丁平
(京都北山歩き70)
7月12日(日) 曇り時々晴れ
出町柳駅8・30集合→若狭(バス)
坊村9・30(50分)ナマハチ10・45
11・00→講習山12・00(昼食)12・
45・オグロ坂13・15・14・00→八丁
平13・50・14・00→伊賀谷林道終

点15・30 中村学級15・30・16・
20 一本松尾根分歧10・20 人道
ヶ岳11・30(昼食)12・15 池ヶ
谷延羅小屋13・40→登山口14・20
→駿足キャンプ場14・45 桃林寺
15・05→椿林→椿草場15・20(解散)

雨のなか、一部コースを変更し
たが、結構多く歩くことになった。
雨と汗でびしょ濡れの人もさぞ
にヒルの歓迎を免ける。それでも
近くにホトトギス・ウグイスを聽
き、池ヶ谷の小流域を見ながらの
下山で、りこう楽しい一日であつ
た。

「参加者」井上久子 豊田真理子
木村好和 森澤元博 森澤淑子
鶴田和江 平龍一 平 幸子
荒井寛子 高橋正人 森 美香子
伊藤豊一 横原 尚 石田真由美
稻垣逸夫 森 駿代 藤木みづみ
○希望幸大 ○鈴鹿英五(計19名)

33集合 12・15出発 (バス・名神)
 今日 雨の予報ひ 小牧インター
 1・16 (バス) 朝霧金山の森緑会場内
 30 (バス) 朝霧金山の森緑会場内
 所3・15 (飯坂・朝食) 6・10
 (バス) 横谷峡四つの滝も・50
 (飯坂) 8・30 (バス) 金山温泉
 (入浴・休憩) 11・25 (バス) ド
 ライブイン飛山口・30 (昼食) 12・
 50 (バス) 京都市駅 10・30 (解散)
 登山口の金山の森付近は若者の
 1時間間まで集中豪雨に包囲され、
 横谷峡内の係員より後谷山登山
 禁止を勧められた。再度大雨なら
 路道が通行止めになるため登山を
 断念し、横谷峡四つの滝の滝の中
 1時間ほど滞留した。その後金山
 游泳「ゆったり船」でリラックス
 して帰京のバス旅となつた。近く
 て遠い篠谷山はまたの機会を待つ
 ています。

(参加者) 堀 久子 中村和子
 小坂博子 中川光郎 中路加代子
 寺山久広 吾田裕美 三井恵一
 長谷川美 石田賢二 多賀久子
 宮本真幸 宮本亮子 織田暢子
 黒見瑞子 武田元可 村上俊子
 石原義子 下村啓子 竹内喜久子
 鳥野伸夫 藤本和子 砂原恵子
 本間 隆 岩田育士 上井恵美子
 (講習会) (講習会) (講習会)
 (講習会) (講習会) (講習会)

深山幽谷の渓流はひんやりとし
 て生き透した感じ。青い潤や白い
 飛沫がほとばる滝やナメ滝を巡
 行した。「四ノ瀬」ではシャワー
 を浴びてもくち抜ける。童心に返
 り水たたむれながらの楽しい沢
 歩きとなつた。

(参加者) 一谷森明三 松丸勇一郎
 山田景三 吉本葉之 三上伸夫
 水戸鉄治 河辺健男 石田良重美
 池田繁夫 鶴岡かか子 落合ひろ子
 (講習会) (講習会) (講習会)
 (講習会) (講習会) (講習会)

*リーダーの都合で中止しました。



乗鞍岳付近にて

で通行止め。樹木をあさひめ「蓮
 草の森自然歩道」を歩き、越後湯
 泉に滞泊して露天風呂などでくつ
 るいた。15日は白馬大池から桟池
 にくだり、初日は雪や氷床は眺め
 るだけに終わる。ゆっくり静養
 できる長アルプス山行だった。

(参加者) 森川信之 山脇加奈子
 小林 桂 三浦弘幸 中井ひろみ
 良比哲美 寺山久広 山高多恵子
 冲 伸 馬淵利明 村田美江
 南 利恵 上田正子 村上優子
 下村政子 碓井輝夫 中井ひろみ
 石原義子 大平善 竹内喜久子
 橋本正子 福井東彦 安田文美江
 (計24名)

8月23日 (日) 晴れ
 元越谷林道分歧8・20集合 13・35
 (東) 元越谷分歧8・15・大滝9・35
 分岐15・25 (解散)

沢に入ると全員生き返った。花
 園石の明るい滝頭が次々と現れ、
 シャワーを浴びて適当にクライミ
 ングを楽しむ。元越谷は何回来て
 もあるそこがない。またすぐ来
 たくなるのだ。氷裂石の隙縫では
 ツルニンジンの花がひと足早く秋
 を告げていた。

三上伸夫 河辺健男 水戸鉄治
 小林 実 高橋 博 石田良重美
 (講習会) (講習会) (講習会)

8月26日 (火) 晴れ
 京都市駅周辺のりば7・30集合
 8時発 (電車) 京田駅 8・00 10
 (バス) 沼津8・45 19・00 11
 コバ9・50 15・55 16・45

勝沼学 高橋翠吉 安田文美江
 入江武史 木村美江 田中 浩
 阿部吉敏 宮内昭子 鶴木美子
 滝澤達郎 三美幸子 大根 均
 (計29名)

勝谷川 (輪鹿を赤く33)
 8月23日 (日) 曇り時々晴れ
 ひろせ渓谷9・00 須谷川9・
 10・岩ノ瀬11・40 (昼食) 12・
 15・源氏谷山道13・40 14・25・1号
 織笠山口15・15・ひろせ渓谷15・
 (解散)

勝谷の渓流はひんやりとし
 て生き透した感じ。青い潤や白い
 飞沫がほとばる滝やナメ滝を巡
 行した。「四ノ瀬」ではシャワー
 を浴びてもくち抜ける。童心に返
 り水たたむれながらの楽しい沢
 歩きとなつた。

(参加者) 岩佐達美 横尾光子
 高橋(男) 中村英雄 小西尊雄
 鶴木義郎 真田明子 森 昌好
 小林 桂 本間 雄 岩田雅志
 国 彰 三井恵一 熊田千夜子
 桥方由子 新家勝義 川上義子
 寺山久志 中尾哲子 飯田山千子
 北川明子 北川直作 廉原さよる
 森 時代 葉生 香 中尾美智子
 桜皮昭男 村田はるひ
 鮎森喜美子 ○伊藤 真
 ○小山昌春 (計31名)

8月24日 (火) 晴れ
 大沢小屋7・40 (解散) バス
 ミナル8・50 (解散)
 1日目は筆ヶ所にも立ち寄り、
 岩井・赤坂・スパリ岳・針ノ木
 岳のアップダウンのさつて被綿の
 ピークを越え、その勢いで「氣に
 薙華山を往復した。天候に恵まれ
 て北アルプスの峰を見渡して
 山座回定を楽しみ、眼下にはエメ
 ラルドグリーンの黒部湖を俯瞰し
 た。3日目は針ノ木雪壁をくぐり、
 大町温泉で疲れをいやしました。

